

令和3年6月2日招集

茂原市議会定例会会議録（第2号）

議事日程（第2号）

令和3年6月9日（水）午前10時00分開議

第1 議案第23号の上程説明

第2 一般質問

- (1) 小久保 ともこ 議員
- (2) 三 橋 弘 明 議員
- (3) 平 　　ゆき子 議員
- (4) 細 谷 菜穂子 議員

茂原市議会定例会会議録（第2号）

令和3年6月9日（水）午前10時00分 開議

○議長（中山和夫君） おはようございます。ただいまから本日の会議を開きます。

現在の出席議員は21名であります。したがって、定足数に達し会議は成立しました。

ここで報告します。本日、市長から今定例会に提出するための議案の送付があり、これを受
理し、お手元に配付しました。

————— ☆ ————— ☆ —————

議 事 日 程

○議長（中山和夫君） 本日の議事日程は、議会運営委員会において協議の結果、お手元に配
付のとおり、まず追加議案の上程説明を行い、一般質問を行うことといたします。

————— ☆ ————— ☆ —————

議案第23号の上程説明

○議長（中山和夫君） それでは、これより議事日程に基づき、議事に入ります。

議事日程第1「議案第23号の上程説明」を議題とします。

議案第23号を上程します。

市長から提案理由の説明を求めます。市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） おはようございます。議員各位におかれましては大変お忙しいところ
誠に御苦労さまでございます。

さて、本定例会に追加で御提案申し上げます補正予算1件について御説明させていただきます。

議案第23号「令和3年度茂原市一般会計補正予算（第3号）」は、歳入歳出にそれぞれ6860
万円を追加し、歳入歳出の総額を313億5107万8000円にするものでございます。

以上が、追加提案を申し上げる案件の概要でございます。詳細につきましては、担当部長か
ら説明させますので、よろしく御審議を賜り、御可決くださいますようお願い申し上げます。

私からは以上でございます。よろしく申し上げます。

○議長（中山和夫君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

（企画財政部長 麻生新太郎君登壇）

○企画財政部長（麻生新太郎君） 企画財政部所管に関わります議案第23号「令和3年度茂原

市一般会計補正予算（第3号）」につきまして御説明申し上げます。

本案は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ6860万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ313億5107万8000円にしようとするものです。

その内容を歳出から申し上げます。

3款民生費、2項児童福祉費、1目児童福祉総務費の子育て世帯生活支援特別給付金（ひとり親世帯以外の低所得の子育て世帯分）給付事業につきまして、ひとり親世帯以外の低所得の子育て世帯に対し、児童1人当たり5万円を支給するため、一般職給料、職員手当等、子育て世帯生活支援特別給付金給付費等に合計6860万円を追加するものでございます。

これに対します歳入は、16款国庫支出金につきまして、歳出予算に対する財源といたしまして、子育て世帯生活支援特別給付金給付事業費補助金に6860万円を追加するものでございます。

以上、議案第23号について御説明申し上げました。よろしく御審議の上、御可決くださいますようお願い申し上げます。

○議長（中山和夫君） 以上で提案理由の説明を終わります。

☆

☆

一 般 質 問

○議長（中山和夫君） 次に、議事日程第2「一般質問」を行います。

今定例会の一般質問通告者は6人であります。

本日は質問順位1番から4番までとします。

発言に入る前に申し上げます。質問者は質問内容を簡明に述べるとともに、答弁者はその内容を的確に把握し、明確な答弁をされますようお願いいたします。

なお、一般質問時間は、答弁を含め60分以内となっておりますので、御了承願います。

それでは、順次質問を許します。

最初に、小久保ともこ議員の一般質問を許します。小久保ともこ議員。

（12番 小久保ともこ君登壇）

○12番（小久保ともこ君） 改めまして、皆様、おはようございます。公明党の小久保ともこでございます。初めに、4月の市議会議員選挙におきまして、多くの市民の皆様方の御支援を賜り、3度目の当選を果たさせていただきました。これからの4年間、市民の皆様方の負託に応えるべく、精いっぱい努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、我が国において新型コロナウイルス感染症が確認され、1年半が経とうとしております。現在、都市部では緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が延長され、千葉県内においても、

変異株クラスターの発生など感染力の強い変異株の置き換わりが進みつつあり、予断を許さない状況が続いております。

そのような中、コロナ収束への決め手となる高齢者のワクチン接種が始まりました。改めて、新型コロナウイルス感染症対策に万全の体制で取り組むため、私たち公明党も総力を挙げて臨んでいくことを申し述べておきます。

それでは、多くの市民の皆様からいただいた御意見、御要望を基に一般質問をさせていただきます。

初めに、コロナ対策についてお尋ねいたします。ワクチン接種についてであります。

コロナ収束の決め手となるワクチン接種の円滑かつ迅速な取組について、政府は7月末を念頭に、希望する高齢者へのワクチン接種を終えられるよう取り組むとの方針の下、東京、大阪における国の大規模接種や、自治体に対して高齢者向けワクチン供給量の全体像を示し、接種計画の前倒しを求めています。

こうした中、本市における高齢者向けワクチンの本格的接種は5月29日から開始されておりますが、希望する全ての方々が安全かつ迅速にワクチン接種するためには、円滑な接種体制の構築を目指すことが成功の鍵であると考えます。そこで、ワクチン接種を加速化するための課題及び今後の取組についてお伺いいたします。

次に、コロナ禍の影響に対する支援についてお尋ねいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大により生活に困っている市民の皆様や事業者等へ、国や県、市は様々な支援策を講じておりますが、先が見えない状況の中、各支援制度の狭間で、生活に関する不安の声や廃業せざるを得ないなどといった切実な声をたくさんいただいております。このように、新型コロナウイルスの拡大は、地域経済に甚大な被害をもたらしております。

市としても、感染症拡大を防止しながら、経済を立て直していくというかつて経験したことのない事態に直面し、難しいかじ取りを迫られておりますが、市民の皆様と命と生活を守り、事業者の経営を下支えしていくためにも、切れ目のない経済対策を着実に実施すべきと考えます。そこで、コロナ禍の影響に対する支援について、今後どのような支援策を考えているのか、お伺いいたします。

次に、生理の貧困についてお尋ねいたします。

昨今、世界各国で女性の月経に関する生理の貧困に社会の注目が集まっております。生理の貧困とは、生理用品を買うお金がない、また利用できない、利用しにくい環境にあることを指し、発展途上国のみならず、先進国においても問題となっております。

この問題は、日本も無関係ではなく、コロナ禍が長引く中、これまで社会が見過ごしてきた生理の貧困の実態が明らかになっております。任意団体のオンラインアンケート調査によりますと、5人に1人の若者が金銭的な理由で生理用品を買うのに苦労している、ほかのもので代用しているなどの結果が出ており、貧困で購入できないだけでなく、ネグレクトにより親などから生理用品を買ってもらえない子供たちがいるとの指摘もございました。

このような状況を踏まえ、誰一人取り残さない社会を実現するため、さきの4月7日、田中市長に対し、茂原市議会公明党として、コロナ禍における女性の負担軽減に関する緊急要望書を提出し、防災備蓄品の生理用品を無償配布することや配布方法など、生理の貧困に関する取組を求めているところであります。そこで生理の貧困について、当局はどのような認識を持ち、取組もうとしているのかお聞かせください。

次に、福祉の充実についてお尋ねいたします。

高齢者の健康寿命延伸についてであります。新型コロナウイルス感染拡大で外出自粛が長期化することにより、生活不活発や、それに起因したフレイルが懸念されております。フレイルとは、健康と要介護状態の中間の時期にあるとされ、心や体の動きが低下してきた状態を指しており、身体面の機能低下に限らず、他人と交流するなどの社会面、精神面を含めた概念とされております。たとえフレイルの状態になったとしても適切な対応により健康な状態に戻ると言われており、高齢者が健康寿命を維持するため、自身の健康状態を確認することや、フレイルのおそれのある方を早期に発見し、対応するための仕組みづくりが重要と考えます。そこで、コロナ禍におけるフレイル予防の取組についてお聞かせいただきたいと思っております。

次に、障がい者支援についてお尋ねいたします。

新型コロナウイルスにより私たちの生活様式は大きく変わることとなり、障がい者の暮らしは大きく影響を受けております。聴覚に障がいのある方や難聴の方などは、マスクの着用により相手の口の動きが読み取れず、何を言っているのか理解ができないといった声や、感染予防のため通院時などにおいて手話通訳者の同席が難しい場合があり、日常生活に支障が生じる状況があるようです。

それに加え、様々な情報がリアルタイムに伝わっていないことが問題となっております。過去には、総理の会見で手話通訳者がマスクをつけて対応し、表情も言語とする日本手話にとっても分かりづらいものとなりました。そこで、公明党の山口那津男代表が製造業者と共にフェイスシールドのサンプルを届け、翌日の会見より使用されるということもございました。手話は言語であるという認識がしっかりあれば、手話への対応は迅速かつ柔軟に行われたので

はないかと思っております。

このように、コロナ禍では、障がい者などへのより一層の配慮が必要であります。感染リスクを考え、障がいの方もサポート側も共に戸惑いがあるのではないかと考えます。そこで、本市では、障害福祉課に手話通訳者を設置されておりますが、コロナ対策としての対応はどのように行っているのでしょうか。窓口での手話通訳者の体制と利用実績、さらに通訳者が不在のときの対応も併せて伺います。

最後に、地域共生社会についてお尋ねいたします。

我が国の福祉制度は、高齢者、障がい者、子供など属性別、対象者別に整備されてきましたが、昨今は、人口減少など社会構造の変化に加え、個人の価値観の変化、従来の地縁、血縁の希薄化などにより、制度、分野を超えた複合的な問題点が浮き彫りとなっております。8050問題、社会的孤立、介護と育児を同時に担うダブルケア、ひきこもり問題など複合的な課題を抱えている方がこれまでの法制度や支援の枠組みに当てはまらないため、相談に行っても適切な支援につながらないケースが多いと言われております。

こうした状況を改善するため生活困窮者自立支援制度がスタートし、各地で包括的支援の仕組みづくりが進められ、昨年6月には、地域共生社会の実現に向け、貧困や介護、孤立などに対応する市町村の相談支援体制を強化する社会福祉法改正が成立し、本年4月から市町村の手挙げ方式でスタートすることとなりました。

この改正法では、介護、障がい者福祉、子育て、生活困窮の相談支援に関する事業を一体として実施し、本人、世帯の属性にかかわらず受け止める「断らない相談支援体制」を構築し、新たに参加支援、地域づくり支援をセットで行う「重層的支援体制整備事業」を明記しており、それを支える伴走型支援、多機関協働、支援プランの策定も新たに盛り込まれました。また、社会福祉連携推進法人制度の創設も掲げております。そこで、本市における地域共生社会の実現に向け、課題を含めた基本的なお考えを伺います。

以上で1回目の質問を終わりにいたします。

○議長（中山和夫君） ただいまの小久保ともこ議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 小久保ともこ議員の一般質問にお答えさせていただきます。

私からは、まず福祉の充実についての中で、コロナ禍におけるフレイル予防の取組について

の御質問でございますが、フレイル予防の取組につきましては、昨年度、フレイル予防の担い手としてボランティアのフレイルサポーターを33名養成いたしました。今年度は、養成したフレイルサポーターが主体となって、65歳以上の市民の方を対象にフレイルチェックを実施し、フレイルの早期発見、予防、改善に取り組む予定でございます。

また、フレイル予防を周知するためのフレイル予防講演会を開催し、オンライン会議サービスによる配信も行うほか、引き続きフレイルサポーターの養成研修やフォローアップ研修を行う予定でございます。コロナ禍ではありますが、いずれも感染防止に十分配慮し、継続してフレイル予防に取り組むことで、健康寿命の延伸を図ってまいります。

次に、地域共生社会の実現に向けた基本的な考え方についての御質問でございますが、社会福祉協議会をはじめとする福祉団体と連携を図りまして、地域福祉を推進しているところでございますが、従来の属性別、対象者別の制度が浸透している中で、関係者間の調整や地域社会のつながりなどが課題となっております。地域共生社会を実現するには、制度・分野ごとの縦割りや、支え手、受け手という関係を超え、地域にお住まいの方々やその関係者が問題を我が事として捉え、世代や分野を超えてお互いに助け合い、支え合っていく体制づくりを進めていく必要があると考えております。

私から以上でございます。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

（市民部長 田中正人君登壇）

○市民部長（田中正人君） 市民部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

コロナ対策についての中で、ワクチン接種を加速化するための課題及び今後の取組についての御質問でございますが、ワクチン接種につきましては、4月19日から医療従事者、高齢者施設に入所している方への接種を開始し、現在は65歳以上の接種を市内の医療機関の協力を得て、個別接種で実施しているところでございます。当初、本市での接種計画におきましては、65歳以上の方の接種完了を9月末としておりましたが、国から、7月末までに接種を完了するよう要請を受けたことにより、見直しを行ったところでございます。

接種をさらに加速させるためには、個別接種の接種回数の拡充や、集団接種に向けた会場の確保と打ち手である医師や看護師等の確保が課題でございました。しかしながら、茂原市長生郡医師会等の御協力をいただき、各医療機関での個別接種の拡充に加え、市の施設等を活用した集団接種を今月末から実施することで、ワクチン接種を加速させていく考えでございます。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

（経済環境部長 飯尾克彦君登壇）

○経済環境部長（飯尾克彦君） 経済環境部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

コロナ禍の影響に対する支援について、今後どのような支援策を考えているのかとの御質問でございますが、現在、千葉県において、時短要請に応じた飲食店へ協力金を支給する千葉県感染拡大防止対策協力金を実施されており、また、国において緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による影響を緩和するための月次支援金を実施予定となっております。

本市としての今後の支援策につきましては、国や千葉県の実施する支援策を注視し、切れ目ない情報発信に努めるとともに、茂原商工会議所や金融機関との情報共有などにより市内事業者の実態把握に努め、事業者の経営の後押しとなる支援やキャッシュレス決済を用いたポイント還元による消費喚起など、地域経済の活性化を図るための施策についても引き続き検討してまいります。

○議長（中山和夫君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

（企画財政部長 麻生新太郎君登壇）

○企画財政部長（麻生新太郎君） 企画財政部所管の御質問に御答弁いたします。

コロナ対策についての中の生理の貧困について、どのような認識を持ち、取り組もうとしているのかとの御質問ですが、生理の貧困につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済状況の悪化により顕在化され、世界的な社会問題となっており、県内でも小中学校及び公共施設のトイレへの生理用品の配備や無料で配布する機会を設けるなど、対策を講じている市町村が見られます。

本市としましても、生理の貧困は重要な課題であると認識しておりますので、今後、他市の事例を参考にしながら、対応策について検討してまいります。以上です。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

（福祉部長 斎藤洋士君登壇）

○福祉部長（斎藤洋士君） 福祉部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

障がい者支援についての中で、障害福祉課に設置している手話通訳者のコロナ対策の対応についての御質問ですが、手話通訳者の設置につきましては、専用の相談窓口を別室に設けて実施しております。コロナ対策としましては、十分な換気やパーティションの設置及びソーシャルディスタンスの確保など感染防止対策を図っております。また、手話通訳者は、口の動きや表情が読み取れるようマスクは着用しないため、フェイスシールド及びマウスシールドを着用

し、対応をしております。

次に、窓口での手話通訳者の体制と利用実績及び通訳者が不在のときの対応についての御質問ですが、まず、手話通訳者の体制は、毎週水曜日の13時から17時、1名の手話通訳者を設置しております。利用実績は、延べ人数で平成30年度は130名、令和元年度は101名、令和2年度は80名でございます。また、手話通訳者が不在の場合は、磁気を用いた簡易筆談機等を用いて筆談で対応しております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 再質問ありますか。小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） それでは、再質問をさせていただきます。

初めに、コロナ対策のワクチン接種についてであります。

課題として挙げられております打ち手の確保については、厚生労働省が推奨している医療人材のマッチングのほか、潜在看護師や歯科医師、さらに民間力を活用し、打ち手を確保している自治体もございます。また、打ち手の確保は県が主体となり、国も協力するとの報道もございました。そこで、本市では、打ち手不足の解消についてどのような検討がなされているのか伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 茂原市長生郡医師会や公立長生病院の御協力により、医師、看護師への呼びかけをしていただくとともに、民間の事業所への委託によりさらなる打ち手の確保に努めております。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） では、先月より高齢者のワクチン接種が始まりましたが、現時点における接種率についてお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 茂原市の1回目接種の接種率につきましては、6月8日現在で15.0%となっております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 15.0%の接種率とのことで、ワクチン接種を加速させるためには、高齢者の接種予約を補助する必要があると考えます。高齢者に対する民間調査なんですけれども、予約方法は6割が慣れ親しんだ電話を希望しております。さきの予約においても、電話がつながらず困っているとの声をたくさんいただきました。電話予約の混雑を解消するためにも、ネット予約の活用が必要ではないでしょうか。

一方で、高齢者のネット予約は環境が整っていない、あるいはネット予約に不慣れな方が多いため、電話を選択するしかない実情がございます。そのような中、高齢者の円滑な予約を補助しようと市の職員や大学生、アルバイトを雇うなど、工夫して予約の代行を行っている自治体が増えております。愛知県常滑市教育委員会では市内の中学生1775人に祖父母らのネット予約の代行を呼びかけており、睦沢町では中学生がネット予約の補助を行っております。

希望する高齢者が円滑に予約できるよう、本市においても予約代行を実施すべきではないでしょうか。また、教育委員会においても、中学生に対し、祖父母らのネット予約代行支援を呼びかけてはどうか、併せて伺いたします。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 7月末分までの予約受付時には、電話がつながらない、ウェブでの申込みは複雑過ぎるとの声をいただいておりますが、引き続き操作方法の相談をお受けしてまいります。また、中学生に対しましては、教育委員会を通じて自身の祖父母や身近な高齢者のお手伝いを呼びかけてまいります。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） ぜひ呼びかけはお願いしたいと思います。どこで、どのような相談が受けられるか等、困っている高齢者に分かりやすく情報を提供いただきたい思います。

さて、今後は高齢者の優先接種と基礎疾患を有する者等への接種が並行して行われることも想定されます。そこで、国から示されている先行予約期間の設定を適切に行い、この期間においては、障がい者の方々へのきめ細やかな配慮を行い、速やかな予約につながるよう特段の取組が必要と思いますが、御見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 障がい者の方々等への対応といたしましては、状況に応じて個別に対応してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） そのような個別対応の際に、例えば拡大文字や筆談などの合理的な配慮を十分に講じていただきたい思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、高齢者施設におけるワクチン接種については、嘱託医によるワクチン接種が進められていることと思います。一方で、嘱託医が市外の場合、ワクチンは医師が勤務する自治体からの供給のため、全ての入所者に接種ができないといった問題があるようです。そのような場合は、迅速にワクチン接種が実施できるよう、自治体間で協議し、調整を図る必要がある

と考えますが、御見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 高齢者施設入所者への接種につきましては、接種医が市外の場合は、接種医の所在地にある市町村からワクチン分配を受けなければならない、接種できる方が限られている状態でございます。そのため、長生郡市で接種を実施している医療機関に協力をいただき、迅速かつ円滑にできるよう進めてまいります。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 高齢者施設において接種が行えるように、そのような対応をよろしくお願いいたします。

今月末から開始予定の集団接種では、1日約420人の接種が想定されており、事前の入念な準備が重要です。感染防止対策やトイレの確保、誘導のための案内表示、また経過観察時の対応等も必要と考えます。また、アレルギー反応等が出た場合に備え、治療薬の配備や、すぐに病院搬送ができる体制の構築、さらに視覚、聴覚障害などの希望者に対しては、円滑な接種に必要な手話通訳や筆談ボードなどの合理的配慮を十分に講じる必要があると考えます。

今、各地において集団接種の混乱が懸念されておりますが、円滑なワクチン接種を進めるため、どのような事前準備と体制が構築されているのか。また、円滑なワクチン接種を実現するために、64歳以下の接種を見据えた集団接種運営マニュアルの作成が必要ではないかと考えますが、御見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 集団接種を実施するための事前準備といたしましては、人材確保のほか、会場内配置の確認、必要物品の調達を行うとともに、救急患者対応等について協議しております。また、接種時の流れを事前に確認し、問題等を検証するため、事前に接種会場運営訓練を行う準備をしております。なお、市民の皆様が安心安全に接種が受けられるよう、運営マニュアルにつきましても現在作成中でございます。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 運営マニュアルについては、運営訓練の実施によって得られた課題ですとかといったもの、またマニュアルを更新しながら、より効果的に運営できるように早急な対応をお願いしたいと思います。

次に、ワクチン廃棄を防ぐため、キャンセルリストを作成し、対応されるとのことでありますが、そのリストの中で代わりに受ける人がいない場合の対応も必要ではないかと考えます。

そこで、キャンセルリストと共に接種優先順位リストを作成し、緊急的にそれを活用するなど
のワクチンロスに取り組んではどうか、お考えをお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 医療機関でキャンセルが生じた場合は、ワクチンの廃棄を防ぐた
め、各医療機関に柔軟な対応をお願いしてございます。また、市においても優先順位を考慮し
たキャンセルリストを作成し、医療機関から要請があった場合、接種者を案内しております。
市が案内する接種対象者は、新型コロナウイルスに感染することで子供や高齢者、市民サービ
スに多大なる影響を及ぼす可能性が高いと考えられる高齢者施設従事者、教職員、保育士及び
集団接種従事者で、かつ市内に住民登録がある者としております。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 今月末には高齢者の集団接種が始まりますので、希望される方々
が安心してワクチン接種ができるよう、集団接種会場での運営訓練において現場での課題を抽
出し、その人員確保も含めて円滑な接種体制を構築するとともに、また県による高齢者対象の
集団接種も始まりますので、分かりやすいそういった情報提供をよろしくお願ひしたいと思
います。

次の質問に移ります。

コロナ禍の影響に対する支援についてであります。市内事業者への実態把握において、ど
のような声が寄せられているのか、お聞かせください。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 市内事業者からは、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に
より人流の抑制がされていることから、来訪客の減少による影響を受ける業種について業況が
厳しいとの声を伺っております。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） そういった事業者の声を、市はどのように考えて対応しているの
か、お伺ひしたいと思います。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 本市といたしましては、特定の業種に限ることなく、広く支
援が必要であると考えており、また一時的な支援ではなく、今後の事業継続や事業者の持続的
発展につながる支援を行う必要があると考えております。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） ぜひそのような考えを念頭に、支援策を検討いただきたいと思います。

さて、本市においても、厳しい財政運営の中で市内事業者を守っていくためには、地方創生臨時交付金をどう活用していくかということが大事な観点であると思います。そこで、本交付金を活用した施策並びに今後どのような施策を打ち出していくのか、お伺いいたします。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 本市では、地方創生臨時交付金を活用し、国が実施する小規模事業者持続化補助金の交付確定を受けた市内小規模事業者に対し、上乘せ補助を行う茂原市小規模事業者持続化サポート補助金による市独自の支援を行い、今後の事業継続や事業者の持続的発展を図っているところです。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 今後におきましても、定期的に事業者が何を必要としているのかといったものを把握していただき、事業継続等を後押しする施策を検討願います。また、地方創生臨時交付金を活用した独自支援については、速やかに支給ができるよう特段の対応をお願いしたいと思います。

次の質問に移ります。

生理の貧困についてであります。生理の貧困は、コロナ禍で顕在化するまで隠れた貧困と言われており、もっとも声の上げにくい女性の切実な問題であります。この課題解決は、女性がより自分らしく生きられる社会をつくるために必要不可欠であると考えます。生理用品は生活必需品であり、なければ勉強や仕事もできなくなります。よって、生理用品へのアクセスというのは自助、自己解決することではなく、社会で対処しましょうというのが世界の流れになっております。

イギリス・スコットランドでは生理用品の無償提供を義務づけており、韓国ソウル市では18歳まで全ての女性に生理用品を無償で支給しております。また、ニュージーランドでは全ての小学校から高校まで、フランスでは全土の大学で生理用品の無償配布が決定しております。

日本においては、実態調査で、過去1年間に経済的理由で生理用品を買うのに苦労したことがある、買えなかったことがあると答えた人は合わせて26%、生理用品を交換する頻度を減らしたことがある37%、トイレットペーパーなどで代用したことがある27%と深刻な状況が浮き彫りとなっており、東京都豊島区を皮切りに生理用品を無償配布する自治体が増えております。千葉県内においても22の自治体取り組まれております。

そこで、入替時期を迎える防災備蓄品を活用し、生理用品を必要としている方に無償配布してはどうか。さらに、生理用品を含む衛生用品の備蓄品を食料品と同じくローリングストックで必要としている人に行き渡る仕組みをつくり、有効活用してはどうか、御見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 防災備蓄品の活用につきましては、今後生理用品の入替時期までに無償配布ができるよう協議してまいります。

仕組みづくりにつきましては、食料品と同様に生理用品を含む衛生用品に関しても、ロスをなくす観点から配布は有効と考えておりますので、配布方法等の仕組みづくりを協議検討してまいります。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） よろしく願いをいたします。先進事例でありますけれども、愛知県東郷町の小学6年生の女子児童は、生理の貧困問題に加えて、生理用品を持ち歩くことが恥ずかしく、学校で1度も交換したことがない人がいるということを知り、子ども議会においてこの問題を取り上げ、学校のトイレに常備することとなりました。また、千葉市では、学校の保健室に常備している生理用品について返却不要と学校に通知するなど、学校における対策も進んでおります。

先ほど述べたように、ネグレクトの問題や準要保護、要保護の子供が増加している状況から、声を出せずにいる子供がいるのではないかと、小中学生への影響も懸念しております。そこで、学校で常備している生理用品については、貸与から提供することを検討するとともに、防災備蓄品の有効活用として、学校のトイレあるいは保健室において配布してはどうか、御見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 生理用品につきましては、全ての学校で常備し、困った児童生徒がいた場合には対応できる体制を整えております。ほとんどの学校で、使用した場合そのまま提供しておりますが、今後は全ての学校で提供できるよう検討してまいります。

また、防災備蓄品の有効活用につきましては、配布される量に応じた活用方法について協議をしてまいります。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） よろしく願いをいたします。この課題は、生理用品の配布だけではなく、相談への入り口であり、女性が活躍するための健康支援に通じるものであります。

こういった問題を男性の皆さんも広く知っていただき、様々な困難、課題を抱える女性に寄り添った支援の第一歩としていただくことを切に願います。

次の質問に移ります。

高齢者の健康寿命延伸についてであります。答弁にありました今年度実施予定の取組について、具体的な内容をお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） まず、フレイルチェックにつきましては、広報等で参加者を募集し、定員15人を4回、合わせて60人の高齢者に実施する予定でございます。また、もばら百歳体操団体など的高齢者の集いの場から要望があった場合にも訪問して実施してまいります。

フレイル予防講演会につきましても、広報等で参加者を募集します。フレイル予防を通じた健康長寿のまちづくりを展開している東京大学高齢社会総合研究機構から講師を招き、コロナ禍におけるフレイル予防をテーマに、市民室で定員を30人程度として開催する予定でございます。また、希望者にはオンライン会議サービスのZ o o mを活用し、同時双方向型で講演内容を配信し、質疑応答などができるよう開催する予定です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） オンラインを活用するとのことで、高齢者の集い方や人とのつながり方の新しい形として期待をいたします。

さて、フレイルは、運動、口腔を含む栄養、社会参加の対策で予防や回復が可能であるとされており、運動だけでなく、口腔を含む栄養、社会参加もフレイル予防や回復の重要なポイントとなります。そこで、オーラルフレイル予防や栄養、社会参加を促す取組について伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 令和2年度から後期高齢者健診にフレイルに着目した項目を取り入れ、フレイル健診を実施しております。オーラルフレイル予防や栄養については、健診の結果、フレイルの疑いのある方に対して、歯科衛生士による歯科相談や栄養士による栄養相談を行い、健康の改善に向けた指導を行っております。

社会参加を促す取組といたしましては、もばら百歳体操団体やウオーキング教室への参加利用を促しております。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 次に、フレイルの気づきから健康への行動変容にどう移していけるか、いかに継続していけるかが課題ではないかと考えます。この点についてどのように取り

組まれているのか伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） フレイルの疑いのある対象者に対しまして、歯科相談や栄養相談の案内とフレイル予防のパンフレットを送付し、現在の健康状態を理解していただき、生活習慣の改善を促しております。さらに、約半年後に対象者への電話がけを行い、状況をお聞きし、フレイル予防の取組を継続できるようアドバイスをしております。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 現在の取組も大変重要であり、それに加え、健康への行動変容を促し、継続する仕掛けとして健康マイレージがございます。これまでも提案させていただいておりますが、本事業についてどのような検討がなされているのか、お聞かせください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 健康マイレージにつきましては、これまで他市町村の状況や実績を調査してまいりましたが、県が令和2年12月から健康マイレージ事業として「元気ちば！健康チャレンジ事業」を開始したため、現在当該事業との連携による事業の実施を検討しております。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） コロナ禍の今、フレイルの進行が懸念されておりますので、早期に本事業が開始できるようお願いしたいと思います。

次に、フレイル健診未受診者への健康状態はどのように把握し、必要なサービスにつなげているのかお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） フレイル健診未受診者につきましては、レセプトから薬の服用状況や治療中断の状況を把握した上で、保健師等が訪問して本人の健康状態を確認してまいります。また、必要に応じて医療機関と連携した上で、医療機関への受診勧奨や介護予防サービスの利用につなげてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 本市では、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施において、フレイル予防に着目して、令和元年度から東京大学高齢社会総合研究機構と連携を図り、フレイル予防プロジェクトを開始しており、高く評価をしております。本事業のほかにも、従前より実施している高齢者の健康増進策や社会参加を促す取組などもフレイル予防につながるもの

と考えます。この関連する事業をどのように体系化して展開しているのか、お聞かせください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 今後は、フレイルリスクの高い方には直接訪問指導をするなど、保健事業と介護予防が切れ目なく一体的に実施できるよう関係各課と横の連携を密にし、高齢者の健康寿命延伸に取り組んでまいります。以上です。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） よろしく願いをいたします。自粛生活の長期化により、生活不活発及び食生活の乱れ、さらには人とのつながりの断絶により健康二次被害が危惧されておりますので、これからもICT技術を駆使し、体は離れていても心は近づくことができるといった地域社会を構築しながら、健康寿命の延伸に取り組んでいただきたいと思います。

次の質問に移ります。障がい者支援についてであります。

手話通訳者の窓口利用は減少傾向にあります。派遣についても減少傾向にあるのか伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 手話通訳者の派遣を利用された方は、延べ人数で平成30年度が190名、令和元年度が174名、令和2年度が123名で、減少傾向となっております。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 手話通訳者の利用の減少傾向について、その要因をどのように考えているのか伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などが主な要因と考えております。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 感染予防の観点から手話通訳者の同行が困難な状況がある中で、聴覚障がい者等の意思伝達を支援する取組として、遠隔手話通訳サービスがございます。本サービスは、聴覚障がい者等に代わり、手話通訳者が代理で相手へ用件を伝えるもので、対面型と代理電話型の方法があります。対面型は、市役所などの窓口にタブレット端末を設置して、利用者がタブレットへ向かい、手話で用件を伝え、遠方にいるオペレーターが音声で窓口の人に伝える方法です。他方の代理電話型は、利用者が自身のタブレットやスマホから代理電話サービスにつないで、手話で用件を伝え、遠方にいるオペレーターが代わりに先方に電話をかけ

て用件を伝え、その内容を利用者に手話で伝える、いわゆる電話リレーサービスの方法です。

代理電話型については、聴覚障がい者等による電話の利用の円滑化に関する法律が令和2年12月1日に施行され、令和3年7月からは電話リレーサービスが開始予定であります。本サービスは24時間365日利用でき、緊急通報や日常的な仕事、家族、友人などお互いにやり取りすることが可能となります。このようなサービスは、障がいのある方にとって新たなコミュニケーションツールとして期待されます。

しかしながら、聴覚に障がいのある方は電話をかけるという習慣があまりないため、丁寧な説明と積極的な周知が必要ではないかと考えますが、御見解をお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 電話リレーサービスは、聴覚や言語機能に障がいのある方の意思疎通手段として非常に有効であると考えております。本サービスは、今年度から新たに始まるため、広く普及し、多くの方が利用できるよう、より丁寧な説明に心がけるとともに、市公式ウェブサイト等による広報やパンフレット等の活用のほか、国・県・関係団体とも連携を図り、適切に対応してまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 本サービスは聴覚障がい者と健聴者との壁をなくし、同じ環境で生活や活動ができるようになり、さらにコロナ禍においては通訳者と当事者の感染リスクを避けることにもつながりますので、適切な対応をよろしくお願いいたします。

最後に、地域共生社会についてであります。課題とされております地域社会とのつながりについてであります。昨年6月に改正された社会福祉法では、地域福祉の推進にあたり、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら参加し、共生する地域社会の実現を目指して行わなければならないことが新たに規定され、併せて地域共生社会の実現を図るため、地域住民の複雑化、複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備することが市町村の責務とされました。

この法改正により、本市の地域福祉計画をはじめ他の福祉関連計画を精査し、新たに明記する必要があると考えますが、御見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 今般の社会福祉法の改正により、地域共生社会についての規定が追加されましたことから、次期計画の策定時に位置づけるとともに、関連施策との連携を図ってまいります。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 続きまして、重層的支援体制整備事業についてでありますけれども、断らない相談支援を中心とした相談支援事業、社会とのつながりや社会参加を支援する参加支援事業、また地域住民などがつながり、支援や地域づくりなどに参加しやすい環境を整備、コーディネートする地域づくりに向けた支援事業の3つを一体的かつ重層的に整備するものであります。

本事業については、昨年8月に厚生労働省から各市町村に対し実施意向や事業費の見込み等についてのアンケートが実施されたことと思います。そこで、本事業の実施意向とその時期について、どのように回答されたのか伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 重層的支援体制整備事業の実施に関するアンケートにつきましては、今後実施する可能性はあるが、時期は未定と回答しております。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 地域共生社会を実現するためには、重層的支援体制を構築していく必要があるものと認識していると理解をいたします。国は、希望する市町村が円滑に移行できるように、国が4分の3、市町村が4分の1の補助率である重層的支援体制整備事業交付金を創設しており、移行準備事業や都道府県後方支援事業などがございます。国の支援が受けられることとなり、移行準備事業に係る補助金を活用して実施計画の策定も検討すべきと考えますが、御見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 重層的支援体制整備事業を県内で実施している自治体は2市のみでありますので、他市の動向を注視しながら調査研究してまいります。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） まずは、断らない相談支援を含む包括的相談支援体制の構築を目指し、取り組むべきではないでしょうか、御見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 包括的相談支援体制につきましては、今後取り組むべき課題として認識しているところでございます。体制の構築にあたりましては、新しい窓口をつくるのではなく、既存の支援関係機関を生かしてつくることとされており、自立相談支援を行う長生ひなたや高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターなど、これまで充実を図ってきた

分野もございますので、本市にとってどのような体制がいいのか見極めながら調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 小久保ともこ議員。

○12番（小久保ともこ君） 最後になりますが、今、地域福祉の考え方が大きく変わる過渡期にあると考えます。地域住民や福祉の関係者だけで推進してきた地域福祉を、行政をはじめ地域に関わる全ての人や関係機関による多様な構成員によって推進されていく時代を迎えております。国は、地域共生社会の実現のためには包括的支援体制の構築が求められ、具体的には重層的支援体制整備事業が提案されておりますが、そのことは努力義務ということで、市町村行政に大きな地域格差が生じている現状がございます。国は取り組む市町村には財政的支援を講じていることから、いずれ実施するのであれば、ぜひ財政的支援を受けて取り組んでほしいと望むものでございます。

まずは、各事業の体系化を進め、断らない相談支援体制を優先して整備しながら、一体的なものとして、本市の状況に適した重層的支援体制の在り方についての検討をお願い申し上げます。

以上で私の一般質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（中山和夫君） 以上で小久保ともこ議員の一般質問を終わります。

ここで、しばらく休憩します。

午前11時05分 休憩

☆ ☆

午前11時15分 開議

○議長（中山和夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、三橋弘明議員の一般質問を許します。三橋弘明議員。

（21番 三橋弘明君登壇）

○21番（三橋弘明君） 志友会の三橋です。改選後初めての一般質問であり、議場の風景も大分さま変わりいたしました。市民の負託に応えるべき一般質問をさせていただきます。

初めに、1点目として茂原公園について、茂原公園弁天湖護岸の工事概要について伺います。

2点目は、ひめはるの里について、ニチイ撤退後、ひめはるの里利活用計画について伺います。

3点目は、地域消防の後継者について、消防団員の採用条件について伺います。

4点目は、文化ホールについて、イオン側から文化ホールの合同計画の提案があったと聞き

ましたが、事実関係を伺います。

5点目は、教科書採択について、令和3年度から使用される歴史・公民教科書採択の経緯について、長生採択地区協議会における内田教育長の立場について伺います。

6点目は、本納地区学校再編についてであります。最初に、住民意見交換会を通した中で3地区の市の見解について、住民意見交換会を通し、本納地区それぞれの雰囲気各市はどのように感じたかを伺います。

次に、2番目として、第二次実施計画の策定と学校再編審議会の役割と位置づけについて伺います。

次に、3番目として、本納小の移転に向けた取組状況と今後の諸課題について伺います。

まず、最初に、本納小学校建設の進捗状況について伺います。

2点目は、移転に向けた取組について、児童や保護者への説明の予定について伺います。

3点目は、受け入れ側である中学生やその保護者への説明の予定について伺います。

4番目は、本納小学校移転後の諸課題について伺います。

大きな7点目として、本納駅東口の橋上化についてであります。実現化に向けた取組について市の見解を伺い、最初の質問とさせていただきます。

○議長（中山和夫君） ただいまの三橋弘明議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 三橋弘明議員の一般質問にお答えさせていただきます。私からは、まず、ひまはるの里のニチイ撤退後の利活用計画についての御質問でございますが、旧ひめはるの里につきましては、今年3月にサウンディング型市場調査を実施し、合計6事業者から提案をいただきました。調査結果でございますが、都心からのアクセスの良さやロケーションなどに評価をいただき、グランピング、キャンプ場、観光牧場、地域交流施設など様々な活用アイデアをいただいたところでございます。今後調査結果に基づき、利活用方針、公募条件の策定に向けて検討を進めてまいりたいと思っております。

次に、文化ホールについて、イオンとの合同建設計画の事実関係の御質問でございますが、過去においては、駅周辺の立地を生かした複合施設の検討を行った経緯はございます。具体的に言いますと、イオンが1階建ての平屋を建て、裏側にホテルを建てると、このような話でございましたけれども、そのような話も全く今はございませんし、そういった申出を聞いたことも1回もございません。

私からは以上です。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

（都市建設部長 渡辺修一君登壇）

○都市建設部長（渡辺修一君） 都市建設部所管に関わります御質問に御答弁いたします。

最初に、茂原公園についての御質問で、茂原公園弁天湖護岸の工事概要についての御質問ですが、平成30年度に策定した茂原公園施設等長寿命化計画に基づき、今年度及び来年度の2か年にかけて整備を予定しております。今年度は、かごマット工による護岸全周373メートルのうち、東側の改修223メートル及び護岸改修に伴う園路の舗装工等を予定しております。施工期間は、出水期を避けた11月上旬から3月上旬を予定しております。また、来年度は、残りの150メートルの護岸改修及び園路の舗装工等を予定しております。

最後に、本納駅東口の橋上化についての御質問で、本納駅東口の橋上化について市の見解との御質問ですが、駅舎橋上化につきましては、駅利用者の利便性や周辺地域からのアクセス向上の有効な手段であると認識しております。橋上化による十分な効果を得るためには、都市計画道路や駅前交通広場等と併せた一体的な整備が必要であると考えております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

（総務部長 鈴木祐一君登壇）

○総務部長（鈴木祐一君） 総務部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

地域消防の後継者についての中で、消防団員の採用条件についての御質問でございますが、消防団員の採用条件につきましては、長生郡市広域市町村圏組合消防団員の定員、任免、服務等に関する条例で、当該消防団の区域内に居住し、または勤務する者、年齢18歳以上の者、志操堅固でかつ身体強健な者と規定されております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 教育長 内田達也君。

（教育長 内田達也君登壇）

○教育長（内田達也君） 教育関係の御質問に御答弁申し上げます。

初めに、教科書採択について。長生採択地区協議会における教育長の立場でございますが、協議会規約により、各長生郡市町村の各教育長、教育委員のほか、教職員、保護者の代表による22名の委員により、長生採択地区協議会は構成されております。私もそのうちの1人となっております。

次に、本納地区学校再編について。住民意見交換会を通し、本納3地区それぞれの雰囲気

どのように感じたかとの御質問でございますが、住民意見交換会は、本年5月9日から19日までの間、各地区で2回開催し、本納地区は計36名、新治地区は計90名、豊岡地区は計50名の参加がございました。各会場の主な意見として、本納地区は、校舎移転に伴う環境整備や安全対策、跡地利用、小中一貫教育、雨天時の送迎等の意見がございました。新治地区では、本納小の安全面への意見、新治小の存続、本納小への統合反対、住民意見の反映、跡地利用のほか、保護者からの本納小との早期統合の要望等の意見がございました。豊岡地区では、本納小の安全面への意見、豊岡小の存続、本納小への統合反対、住民意見の反映、小中一貫教育等の意見がございました。なお、3地区の意見交換会の雰囲気を知るについては、主観的な要素が含まれるため、各会場の主な意見を答弁させていただきました。

次に、第二次実施計画の策定と学校再編審議会の役割と位置づけでございますが、茂原市学校再編審議会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき条例により設置された附属機関であり、市教育委員会の諮問に応じ、小中学校の統合、廃止等再編に関することなどを調査審議する役割を担っており、公正・中立な立場から審議していただいております。教育委員会では茂原市学校再編審議会に第二次実施計画に関する茂原市立小中学校の再編に関する具体的な方策について諮問をしており、今後審議会の答申に基づき、第二次実施計画を策定してまいります。

次に、本納小の移転に向けた取組状況と今後の諸課題の中で、本納小校舎建設の進捗状況について伺うとの御質問でございますが、小中一貫型校の新校舎建設工事は、屋根や外壁などの建物外部は完了し、現在は内装などを施工しております。また、小学校職員室や図書室などの既存校舎の改修も始まっており、9月の移転に向け、工事は順調に進んでおります。

次に、移転に向けた取組について、児童や保護者への説明の予定でございますが、小学校においては学校だよりを活用し、随時情報を児童及び保護者へ説明をしております。また、PTAの役員において移転に関する説明をしております。6月には新校舎と既存中学校校舎の配置や遊具や駐車場等の整備状況についてお知らせする文書を配布し、8月中旬頃には内覧会を予定しております。今後も必要な情報を適宜お知らせしていくとともに、保護者からの問合せにも真摯に対応していきたいと思っております。

次に、受入れ側である中学生やその保護者への説明の予定でございますが、中学校においても、全校集会や生徒会活動で生徒へ説明する予定でございます。また、学校だよりの活用により保護者へも情報を発信してまいります。

最後に、小学校移転後の諸課題についてでございますが、授業時間の違いや、特別教室の共

用、学校行事の持ちかたなど様々なことについて、既に小中学校の職員で対応を検討しております。また、移転後に新たな課題が生じた場合は、小中学校で連携し、解決に向け取り組んでまいります。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 再質問はありますか。三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） それでは、茂原公園についてですけども、弁天湖護岸の工事と併せ、弁天湖の中にある弁財天も修繕の必要があるということですけども、修繕すべきと考えますが、市の見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 弁財天につきましては、宗教施設でございますので、政教分離の原則により市が修繕することは難しいと認識しております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 通告はしていませんが、政教分離の原則で難しいということですが、市政運営のトップである市長に伺います。新本納小の地鎮祭は行ったのかどうか伺います。

○議長（中山和夫君） 答弁を求めます。市長 田中豊彦君。

○市長（田中豊彦君） 私の記憶ではやっていないと思いますが。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 私の情報ではやったと聞いておりますけども、コロナだから内々でやったと聞いておりますけども、やっていないということでもありますから、それはそれでいいんですけども、よく地鎮祭というのをやりますよね。地鎮祭ということは、やはり宗教行事ですよ。政教分離の中でそういう判例もあるんですけども、それはそれとして、茂原公園は茂原市の観光スポットの一つでありますし、市民の憩いの場でもあります。弁財天のどこか土台かなんかが老朽化しているということなんですけども、老朽化により事故が起きたときを考えた場合、また弁財天を維持管理する団体のメンバーの方々がどのような人か分かりませんが、多分、田中教の信者の方が多いと思いますので、この際、何らかの方法で市が修繕すべきと提案します。

次の質問に入ります。ひめはるの里の利活用についても、市の観光スポット、市民の憩いの場となることを要望し、この件については終わります。

3番目の消防団ですけども、条例により採用条件が合わず退団した団員がいると聞くが、該当者は何人いたのか伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 令和3年3月末で、採用条件が合わずに退団した団員は8名と伺っております。以上です。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 条例により退団された方が8名とのことで、団員確保が難しい中、大変残念に思います。広域の条例の中にそのような規定があるとのことですが、条例のための条例ではなく、特例を設けるとかして救済措置を講じていただきたいと考えます。広域議会の問題ですけども、広域議員の方々には、今後この点の改善をお願いしたいと要望いたします。

次に、文化ホールについては、そのような計画はないとのことですので、これ以上の質問はできませんが、もしそのような提案があったときは、前向きに検討していただくようお願い、要望いたします。

次に、教科書ですけども、内田教育長が担当した教科は何か伺います。

○議長（中山和夫君） 教育長 内田達也君。

○教育長（内田達也君） 長生採択地区協議会での教科書の選定は、まず各教科ごとに3人の専門調査委員で構成される専門調査委員会がつくられます。専門調査委員は、文部科学省の検定を通った複数の教科書の内容を調査し、その調査結果を採択地区協議会に報告します。採択地区協議会では、各教科ごとの調査結果を基に全ての教科の教科書を選定します。したがって、採択地区協議会委員に担当の教科は決まっておりません。私も全ての教科書の選定に関わっており、担当する教科があるわけではございません。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 担当する教科があるわけではないということですけども、この場では歴史・公民教科書についての質問なんですけども、今までに何度となく質問してきました。要するに、教科書選定も大切ですが、先生が子供たちに自虐史観の教育をするのではなく、日本の歴史、文化、日本人としての誇りを持てる教育を願うということであります。このことを教育委員会また教える先生方に強く要望して、この質問を終わります。

次に、本納地区学校再編について、住民意見交換会の中で、雨天時の保護者の送迎について伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 雨天時の送迎につきましては、周辺道路の混雑解消のために、橋樹神社とほのおか館の駐車場を借用し、対応してまいります。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 雨天時のみならず、過日、刃物を所持した不審者が出たというときでも、大変大渋滞、大混乱をしたと聞いております。これも含めて、9月以降の課題としたいと思っております。

次に、本納小の保護者の中には、移転が9月と間近となり、新校舎の全容が見えてきた中で、本納中学校の片隅の狭いところに本納小の母校が建設され、複雑な思いがあると思っておりますが、当局の見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 本納小学校につきましては、新校舎だけでなく、既存の特別教室棟や体育館、グラウンドなど本納中学校との共用施設を含め、本納小学校として捉えております。移転後は、本市で初となる施設一体型の小中一貫教育を進めてまいります。これまで積み重ねてきた本納小学校の歴史も大切に引き継いでまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 歴史を大切に引き継いでいくとのことですが、新しい体制の中では大変難しいと思っております。

次に、新治、豊岡地区では学校再編に理解を示す意見もあったと思っておりますが、本納小への統合反対とともに、なぜあの場所なのかという意見も多かったと思っております。改めて、なぜあの場所なのか、市の見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 新治、豊岡地区の意見交換会では、本納小学校移転場所での水害や湧出ガスなど安全面への御意見等をいただきました。水害対策につきましては、昨年度より大雨警報等が発表された際には臨時休校とするなどの対応を行っております。また、湧出ガスにつきましては、調査の結果、濃度は高くないということでございますので、新校舎に自然排気を促す対策やガス警報器の設置を行うなど安全面に配慮しております。なお、移転場所については本納地域の中心に位置し、施設一体型による小中一貫教育を推進するのに適していると認識をしております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 適しているということですが、適しているかどうか、9月以降判明していくわけですが、市の認識を期待するところであります。

次に、意見交換会資料の中で、未来に役立つ教育ができる環境を整えるのは大人の責務と述

べておりますが、言葉とは真逆のことを指していると思いますが、見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 本納地区の3小学校については、引き続き小規模化が見込まれるため、教育委員会としては、一定の集団規模を確保し、施設一体型の小中一貫教育を推進することで、子供たちにとってより良い教育環境を目指してまいります。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 意見として述べさせてもらいますが、まずは引き続き小規模化が見込まれるということで、このことについては、後でまた言わせてもらいますが、今回の意見交換会資料に初めて本納ニュータウンの数値が示されました。そういう中で、本納ニュータウンが今後どうなるか、今後の増加に期待するところであります。それとともに、より良い教育環境ということなんですけども、本納小、新治小、豊岡小、それぞれ100年以上の歴史と伝統があり、各校の校歌は、それぞれに緑豊かな自然環境に恵まれ、子供たちが明るく生き生きと学び、成長する思いにあふれたすばらしい校歌です。現状を見たとき、環境を整えるのは大人の責務とする教育委員会の見解、認識に私は到底理解ができません。これは意見として述べさせてもらいます。

次に、学校再編審議会委員の方々の意見交換会での参加の様子を見ると、出席される委員も少なく、教育委員会の単なる形式な存在と感じますが、市の見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 住民意見交換会へ審議会委員が参加されることは任意でございます。いただいた御意見等につきましては、議事録を事前に審議会委員に送付するとともに、審議会でもその概要を報告させていただきます。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） これも意見ですけども、意見交換会での現場の生の声を聞くことなく、議事録で判断することは、現状把握が大変難しいと感じます。

次に、審議会は公正・中立な立場であるとしておりますが、委員構成自体が公正・中立と言いがたいと思いますが、市の見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 審議会の委員につきましては、茂原市学校再編審議会条例に基づき、学識経験者や自治会関係者、教育関係者などで構成をされております。審議会の委員には、全市的な視点で様々な角度から審議いただくため、各種団体から推薦をいただくなどにより選

出をしております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） いろいろな審議会があると思いますが、当然、市の施策に賛成する人を中心にメンバーとしておるわけですが、審議会を設置している県内の他の自治体で、学校再編審議会ですね。茂原のように校長経験者が会長を務めているところがあるのか伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 県内全ての自治体の状況は把握しておりませんが、市原市、木更津市、館山市、印西市で、審議会等の組織において校長経験者が会長を務めた例がございます。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 茂原の場合、会長が校長経験者、そして御子息が現在教員でありということで、市民の中には、このことに対して疑義を抱く方もおります。そういう疑問が生じること自体、公正・中立と言いがたく、今後検討していただくよう要望いたします。

次に、本納小移転に向けた取組についてですが、遊具設置の進捗について伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 遊具設置の進捗状況でございますが、プールの解体は終了し、現在遊具を設置するための整地作業を行っております。今後、鉄棒、ブランコ、滑り台など8種類の遊具設置を行うほか、安全対策のためにフェンスも設置し、令和3年7月末には工事は完了する予定でございます。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 令和2年4月当初、緑川組が中に頻繁に出入りしていましたが、このことについて市民から言及されると、市はプール解体の打合せと説明しておりましたが、実際は、本納小は予定どおり緑川組で、プール解体等は浜谷総業であります。本納小学校建設業者についての市当局の説明の食い違いについて見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 工事に際し、見積書作成のため業者が現場に行くことは一般的なことであるという認識をしております。また、見積書はあくまで参考であり、入札を行う場合は改めて市で設計を行いますので、見積書を作成した業者が落札するわけではございません。教育委員会といたしましては、入札は適正に執行されており、説明の食い違いはないものと考えております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 入札は6月であり、一般的なこと、参考という答弁は詭弁であると思います。

次に、移転に向けた取組について、保護者からどのような問合せがあったのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 学校を通じて行った保護者への説明に対しては、今のところ特に御意見等はいただいておりません。今後予定している説明会等で御意見等があったときには、学校とも連携し、丁寧な説明に努めてまいります。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 受入れ側に対する再質問ですが、9月から移転するわけですが、受験を間近に控えている中学3年生には小中一貫は教育環境の大きな変化であり、影響も大きいと思いますが、当局はどう受け止め、対応するのか伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 昨年実施いたしました中学生への本納小学校移転についてのアンケートでは、小学生が騒ぐことにより、授業や受験に向けたテスト等に集中できなくなるのではないかという不安を上げた生徒が25人おりました。この点につきましては、授業時間への違いの対応をはじめ、子供たちに十分説明をし、落ち着いた学習環境の保持を実践してもらう中で、お互いを思いやる気持ちを育てたいと考えております。本納小学校の移転につきましては、児童生徒にとって教育環境の変化を伴いますが、児童生徒の不安が払拭できるよう十分指導し、楽しい魅力ある学校づくりを推進していきたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 質問が多いから時間が足りないと思ったんですけど、もう減らせばよかったですけど、昨年、今、議員になっている河野英美さんがCDを取って、中学生の声というのがあるんですけども、その中で、中学生は的確に小中一貫、本納小の移転に対して危惧を述べています。まず、自分たちがクラブ活動とかというのも制限されるんじゃないかと。あと小学生がかわいそうだという意見も大分ありました。

そういう中で、楽しい魅力ある学校づくりということですので、それも9月以降、結論が出てくると思います。

そういう中で、次に、小さい子供は騒ぐのが当たり前と思いますが、何を十分指導するのか伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 児童生徒には、元気に気持ちよく生活する上で必要な挨拶の励行ですとか、場に応じた行動の仕方等について、発達段階を考慮する中で指導してまいります。

9月からは児童生徒が同じ敷地内での生活となりますので、施設を共用する際の注意事項や、児童生徒お互いの生活リズムが理解できるよう十分に指導してまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 新治小の意見交換会の場に、教育関係の方は当然いて承知しておると思いますけども、小学校6年生と小学校1年生の子供の保護者の方が、二宮小の友達で、子供が今度は緑ヶ丘小に通うようになったと。緑ヶ丘と一緒に毎日楽しく通っていると。保護者の方は、新治小も早く本納小と一緒にしてほしいと述べました。それは承知していると思いますけど、ただそのときに、その保護者の隣に小6の子供はちゃんと座っていました。小1の子供は、お母さんと体育館の後ろを行ったり来たりして騒いでいたわけです。会場から静かにしろよというような意見が出ました。お母さんが急いで子供を行きましたけども、子供はそれが現実なんですよね。だから、そういうものを、皆さん、教育のベテランですが、一緒にするというのが私には何かよく理解できないんですけども、それが実際現実であるということをおっしゃっていただきました。

次に、小学校移転後の諸課題について。課題については小中連携し、対応するとのことですが、小中がそれぞれ独立した組織との認識でいいのか伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 移転後は小中学校が連携し、諸課題に対応するとともに、小中一貫教育を推進いたしますが、本納小学校、本納中学校には、今までどおり各学校に校長がおり、それぞれ学校経営を行う独立した組織となります。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 小中一貫、新たな取組ですから、また、今ここで言っている以上にいろいろな課題が生じてくると思います。そういう諸課題についても十分丁寧に対応していただきたいと思います。

あと、以前グラウンドや体育館の規模、面積が狭いのではと質問した際に、ちょっと数字はあれですけど、小学校で2400㎡、中学校で3600㎡ぐらいで、本納中は2万ぐらいあるから十分だということなんですけど、この答弁に用いた数値は何なのか、根拠を伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 小中学校の運動場の基準面積については、それぞれ文部科学省令

小学校設置基準、中学校設置基準第8条、別表を根拠としております。また、本納中学校の運動場の面積につきましては、登記簿及び施設管理台帳の面積を根拠としております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 何か基準があるということなんですけども、子供たちは自由濶達に活動しますし、面積がどうのこうの、鳥とか鶏は飼育する面積がこれだけあればいいよというものはありますけど、子供たちはそういうわけにはいかないと思いますし、非常に私は机上の空論と言えます。

そこで、本納小学校には、現在サッカー部、ミニバス、体操部、音楽部、そして長生郡市の大会前の陸上部があるとのことですが、今までどおり活動ができるのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 移転後の両校のクラブ活動の実施についても、小中学校の職員で検討をしております。基本的に、小学生は木曜日が、中学生は月曜日が放課後の活動をしていない日となっており、他の平日は合同練習の実施、また活動場所の割り振りで行っております。また、土曜、日曜は原則として中学生が使用するなど、共通理解により十分活動できると考えております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） この点につきましても、実際9月以降移転後に答えが出ると思います。以上で学校再編については終わります。

次に、本納駅東口の橋上化についてですが、橋上化するにはどの程度の予算が必要かを伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 橋上化に向けた具体的な計画ができていないことから、現時点で事業費は算出しておりません。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありませんか。三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） 具体的な計画ということなんですけども、本納駅東の土地区画整理事業とか、そういうものを実際前はやっていたわけですから、ある程度の数字は出せると思いますので、そういう中でやはり駅前広場とかそういうものもあると思います。ある程度の事業費の概算を出していただけたらと思います。

次に、橋上化実現に向けてはどのようなプロセスが必要なのか伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 整備に向けた基本構想及び基本計画並びに実施設計など、JR東日本や千葉県との協議が必要となってきます。なお、実現に向けては財源の確保が最も重要であり、難しいものと考えております。

○議長（中山和夫君） 三橋弘明議員。

○21番（三橋弘明君） こんなに時間が余ったので、もう少し質問したらよかったですけど、最後に意見として言わせてもらいますが、総合計画では、人口の見通しを、2040年推定人口7万人を政策効果として8万人としております。大網白里市に増穂中が今もありますが、増穂中は昭和46年に一度閉校いたしました。しかし、平成元年に再度開校いたしました。

この要因は何かと言えば、いろいろあると思いますが、大網駅が現在の場所に移転、それが昭和47年とのことです。大網駅が移転したことによって、通勤、通学、いろいろな面で利便性が高まって人口が増えた。その結果、子供も増えた。生徒も増えたということに結びつくと思います。

これが大網の発展に大きく結びついたら私は考えますが、茂原市では重要政策を棚上げし、本納地区の3校は引き続き小規模化が見込まれるとしております。市の政策効果については今後の課題といたしますが、市が外房の中核都市、住んでよかったまち茂原を標榜するなら、もう少しグランドデザインを描けるような市政運営を要望し、質問を終わります。

○議長（中山和夫君） 以上で三橋弘明議員の一般質問を終わります。

ここで、しばらく休憩します。

午後0時05分 休憩

☆ ☆

午後1時00分 開議

○副議長（田畑 毅君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、平ゆき子議員の一般質問を許します。平ゆき子議員。

（19番 平ゆき子君登壇）

○19番（平ゆき子君） 皆さん、こんにちは。日本共産党の平ゆき子でございます。市議選後初の一般質問となりますが、選挙期間中に、日本共産党にお寄せいただきました多くの市民の皆さんの御要望や御意見を基に、コロナ対策をはじめ医療福祉の充実を進める提案を行い、当面する市政の課題について質問をいたします。

まず最初に、地域医療についてです。菅政権が医療制度を大きく揺るがす2つの法案を成立させました。75歳以上に新たな負担を強いる高齢者医療費2倍化法案と、地域の医療機関の統

廃合に拍車をかける病床削減推進法案です。新型コロナ危機は、日本の医療体制の脆弱さを浮き彫りにしています。その教訓に学ぶなら、国民が安心して医療を受けられる体制の強化こそが必要です。それを一層弱体化する法案は、本末転倒です。コロナ禍で病床が逼迫し、各地で患者が行き場を失う状況に陥ったのは、医療機関に余力がなかったためです。既にぎりぎりの地域医療体制の下で、さらなる病床削減を迫ることは力をそぎ落とすことにしかありません。

原資に、消費税増税分を充てるということも大問題です。社会保障のためという増税の口実はいよいよ成り立ちません。政府は2019年、再編統合の対象として約400の公立公的病院のリストを公表しました。ここには、懸命にコロナ対策をしている病院も多く含まれています。コロナ禍でも、政府はリストを撤回しません。地域医療を守る拠点の病院の機能を弱めることは許されません。

全国自治体病院開設者協議会などでは、昨年11月、政府への要望で、コロナ禍を踏まえるなら、再編議論を性急に進めるのではなく、単に効率性、経済性のみを追求するのではなく、医療体制の再構築を求めました。法案を議論した昨年12月の厚生労働省の会議でも、全国市長会から地域医療崩壊を加速させる、全国知事会からも再編整備の話を持ちかける、あるいは調整するなどということは全くナンセンスなど厳しい意見が出されました。

政府の乱暴なやり方に道理はありません。病床削減推進法案には、医師数の増員に背を向け、勤務医の長時間労働を温存、加速する内容も盛り込まれています。医療の拡充を願う国民の声に逆らう法案の強行は許されません。

このように国は病床削減を推し進めています。市はどのように認識されているのでしょうか、お伺いをいたします。

次に、新型コロナウイルス感染症対策について3点伺います。

1点目は、PCR検査の拡充についてです。コロナが猛威を振るい、3回目の緊急事態宣言の再延長が決定される地域や解除した地域を含めて、リバウンドの危険性もはらんだ緊迫した状況が続いています。また、感染力の強い変異株の流行も重大な懸念要素となっています。現状を打開する中でも、無症状感染者を発見、保護するためのPCR検査等を抜本的に拡充することが急務です。

ワクチンは、コロナ収束には有力な手段ではありますが、順調に進んでも、社会全体で効果が現れるには一定の時間がかかります。その上、日本の接種は大幅に遅れています。日本共産党は、政府に対し、コロナ禍感染を封じるためには、1つ、大規模検査、そして十分な補償と生活支援と一体でワクチン接種を進めること、1つ、命を守り、医療崩壊を防ぐために社会的

検査の拡充が必要であり、高齢者施設、医療機関、障害福祉施設の職員、入所者への定期的に検査を行うこと、1つ、モニタリング検査を1日10万の桁で文字どおり大規模に行い、感染封じ込めを図ること、1つ、変異株の疑いを確認する検査の割合を大幅に引き上げることとした緊急要請を提出し、実現を強く求めました。

こうした点を踏まえまして、茂原市では高齢者施設へのPCR検査を定期的に行っているのですが、その進捗状況を伺います。

2点目は、ワクチン接種についてです。茂原市のワクチン接種は、65歳以上の高齢者を対象に5月25日から長生地域全体で長生郡市予防接種予約センターへ電話回線やインターネット回線による予約受付が開始されましたが、先進地同様に大混乱が生じました。50台の電話回線に対応する旨の説明はありましたが、1日電話の前でかけ続けたが、一切つながらなかった、電話がつながらず、やっとつながったときには予約は終了と言われた、電話をかけた人が予約できず、子供や孫にネットでやってもらった人が予約できたなんてあまりにも不公平、予約のやり方を変えてほしい、もう予約をしようなんて考えない、受けられないのならそれも仕方がない。これは、予約が終了してから私に寄せられた市民の声です。

私も対象者でしたので、電話やスマホで時よりかけましたけれども、一切つながりませんでした。65歳以上の高齢者で、パソコン等のデジタル機器を所持している方々が全体の何割いらっしゃるのでしょうか。こうしたデジタル弱者が多くを占める中で、ネットを使わないで予約を進める、例えば福島県の相馬市、前もって地区単位で接種の日時を決め、住民に通知し、都合がつかない場合のみ電話で日程を調整する方法、また、いすみ市は郵送で確認する方法、こういった自治体が多数出てきております。

こうした点を踏まえまして、ワクチンの予約が開始されましたが、現在の状況について具体的に伺いたいと思います。

3点目は、国の地方創生臨時交付金の活用についてです。政府の第3次補正予算に追加された地方創生臨時交付金の地方単独事業分1兆円のうち、約7600億円が2021年度に繰り越され、活用できることが判明しました。臨時交付金は、コロナ禍の下、市民の暮らしや営業を守る苦難軽減に活用されるものと考えますが、茂原市における活用についてお伺いをいたします。

次に、市議選挙にあたりまして、市政アンケートなど市民の声に応える提案として、日本共産党茂原市議団は、子育て安心の茂原市として学校給食の無料化や高校卒業までの子供の医療費助成の拡充、さらに暮らし支援策ではごみ袋代の負担軽減を掲げ訴えました。こうした中、市民の皆さんの協力で学校給食無料化や子どもの医療費高校卒業までの無料化の子育て支援策

を求める署名111筆や、ごみ袋負担軽減を求める署名401筆、その他信号機設置や歩道整備など身近な環境整備を求める署名242筆、総計754筆を集め、5月20日に市に提出いたしました。

こうした市民の願い実現のための質問として、3項めは子育て支援について2点伺います。

1点目は、学校給食無料化についてです。消費税増税、社会保障の切捨て、災害の襲来、加えてコロナ禍による経済危機が長期化し、暮らしや雇用が困難になっている中、政府はその改善に背を向けたままです。今こそ市民の暮らしを応援する市政が必要です。親が経済的に困窮し、食事も満足に取れない子どもたちに対して、学校給食は重要な役割を担っています。特に小中学校での費用の中でも大きな割合を占めているのが学校給食費です。

文部科学省調べで、30年度給食費調査では、保護者の年間負担額は1人当たり小学生で約4万8000円余、中学生で約5万4000円余と、貧困家庭には大きな負担となっています。この間、県内でも大多喜町、神崎町、東庄町、多古町、芝山町、横芝光町、鋸南町、さらに4月からは隣の長南町で小中学校の給食無料化を行い、千葉市では第3子以降と条件付きの無料化を表明しました。こうした学校給食無料化の取組の広がりに対しての市の見解を伺います。

2点目は、子どもの医療費助成の年齢拡充についてです。子どもに何かあったときにお金の心配をしないで医療を受けたい、保護者の切実な願いです。その願いを受けて子どもの医療費助成制度が創設されましたが、地域によってかなりの格差が出ている制度でもあります。特に中学校3年生までの対象年齢の茂原市以外、近隣、千葉県の東部地域ではほぼ高校3年生まで広がっているのが現状です。

そこでお伺いをいたします。1つは、本市の人口減少を食い止めるためにも、子どもの医療費助成の対象年齢を高校3年生まで拡充をし、子育て世代にPRすることが必要と考えますが、市の見解を伺います。

3つ目は、本市の子ども医療費助成の児童数や事業の推移について伺います。

次に、暮らし支援策について2点伺います。

1点目は、ごみ袋の負担軽減についてです。日本共産党茂原市議団が行いました市政アンケートの市への要望で、常にトップに入るのがごみ袋代の値下げです。県下で一番高く、市民生活に直結し、負担感も重く、引下げを求める声も切実です。この間、幾度となくこの問題を取上げておりましたが、改めてごみ袋代の値下げについての市の考えを伺います。

2点目は、生理用品の配布についてです。生理をめぐる不平等に目を向け、ジェンダー平等を実現していく取組が世界各地で進んでいます。女性の生理、人類が子孫を残すためのもの、生理の貧困の解決は女性だけでなく、男性と社会、ジェンダー平等の課題ですと、いち早くフ

ランスで無償配付が実現しました。

日本でも、今年3月4日、ハッシュタグみんなの生理が公表したアンケートが日本社会に衝撃を与えました。5人に1人の若者が、金銭的理由で生理用品を買うのに苦労したと訴えているのです。これを機に、国会や地方議会で生理の貧困についての議論が活発化しました。特に5月28日に内閣府男女共同参画局は、経済的理由で生理用品の入手に苦しむ生理の貧困の取組に関する調査結果の発表がありました。生理ナプキンなどを配布する自治体が、5月19日時点で全国に255あることが明らかになりました。配布場所は、公共施設や困窮者の支援団体、サポートセンターや学校、公衆トイレなどでの配置が進んでいました。調達先は、防災備蓄が184件で最も多く、予算措置が55件、企業や住民等からの寄附が44件でした。

千葉県でも市川市、船橋市、習志野市、鎌ヶ谷市、千葉市、松戸市、袖ヶ浦市、東金市、木更津市、四街道市、大網白里市、いすみ市、酒々井町、九十九里町などの自治体で無償配布を実施しています。以上を踏まえまして、こうした生理用品の無償配布の広がりに対しまして、市の認識を伺います。

以上で私の第1回目の質問といたします。

○副議長（田畑 毅君） ただいまの平ゆき子議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。
市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 平ゆき子議員の一般質問にお答えさせていただきます。

私から、地域医療についての中で、公立長生病院の今後の在り方で、国が進める病床削減を市はどのように認識しているのかとの御質問でございますが、国はいわゆる団塊の世代が75歳以上になる2025年を見据え、将来必要なベッド数などを定めた地域医療構想を推進しており、最近では病院再編支援のために医療法などの改正案が出されるなどしていることは承知しております。

しかし、厚生労働省が行った2019年10月1日現在の医療施設動態調査によりますと、人口10万人当たりの病床数で千葉県は47都道府県中ワースト5位であり、1位の高知県とでは実に2.5倍以上の差がございます。こうした地域格差がある中で、本市が属する山武長生夷隅保健医療圏においては、全体としては病床数が不足している状況であり、今後地域全体の医療需要と医療資源のバランスを見極めながら慎重に対応していくべきと考えております。

私からは以上でございます。

○副議長（田畑 毅君） 福祉部長 斎藤洋士君。

(福祉部長 齋藤洋士君登壇)

○福祉部長(齋藤洋士君) 福祉部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

まず、新型コロナウイルス感染症対策についての中で、高齢者施設へのPCR検査の進捗状況についての御質問ですが、現在、高齢者入所施設の職員を対象としたPCR検査を千葉県が実施しているところでございます。内容といたしましては、希望施設に対し、唾液採取法によるPCR検査を令和3年3月から月1回、施設の費用負担なしで実施しております。なお、市内対象施設45施設のうち、3月は32施設1082人、4月は31施設1045人が検査を受け、全員陰性であったと伺っております。

次に、子育て支援についての中で、子ども医療費助成の高校3年生までの年齢拡充についての御質問ですが、本市の子ども医療費助成につきましては、これまで中学3年生までの通院助成や所得制限の撤廃など、段階的に制度の拡充を図ってまいりました。安心して子どもを産み育てる環境づくりのために、子ども医療費助成制度が果たしている役割は重要なものと認識しておりますが、高校3年生まで拡充した場合、後年にわたり費用負担が生じることとなりますので、ほかの子育て支援施策との優先順位を考慮しながら、改めて必要性について検討してまいりたいと考えております。

次に、子ども医療費助成の児童数や事業費の推移についての御質問ですが、子ども医療費助成の対象となる児童数につきましては、それぞれ4月1日時点で、平成30年度9611人、平成31年度9218人、令和2年度9054人で、減少傾向となっております。また、事業費の推移につきましては、決算額で平成30年度が2億8415万3000円、令和元年度が2億7990万4000円、令和2年度は2億1634万円となっております。以上でございます。

○副議長(田畑 毅君) 市民部長 田中正人君。

(市民部長 田中正人君登壇)

○市民部長(田中正人君) 市民部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

ワクチン接種予約の現在の状況についての御質問でございますが、新型コロナウイルスワクチン接種につきましては、長生郡市7市町村合同で実施しており、65歳以上の高齢者の方を対象に、5月25日から個別接種の予約受付を開始いたしました。今回の予約は、接種回数で約4万回分、接種期間は7月末までとし、電話及びインターネットにて受付をいたしました。その後5月28日に用意した分は埋まりましたので、今回予約分の受付を終了したところでございます。しかしながら、予約が取れていない方が多くいらっしゃいますので、接種を希望する全ての65歳以上の高齢者の方が一刻も早く接種できますよう、個別接種に加え、市町村ごとに集団

接種を今後実施してまいります。

○副議長（田畑 毅君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

（企画財政部長 麻生新太郎君登壇）

○企画財政部長（麻生新太郎君） 企画財政部所管の御質問に答弁いたします。

新型コロナウイルス感染症対策についての中で、国の地方創生臨時交付金の具体的な活用についての御質問ですが、地方創生臨時交付金につきましては、令和3年3月に内示のあった第3次の臨時交付金のうち、令和3年度分として繰り越された2億1417万円余を今年度分として活用いたします。具体的な活用内容ですが、雇い止めまたは採用内定を取り消された方を任期付職員として採用する事業、指定避難所における備品、消耗品費等の購入事業、感染症に強い新ビジネスの創出や移住定住につながる空き家等の活用の検討事業など、8事業1億6460万7000円を申請いたしました。申請限度額との差額4956万円余につきましては、今後適宜事業を選定し、執行してまいります。

続きまして、暮らし支援策についての中の生理用品の配布について。他市においては生理用品の無償配布が実施されているが、市の認識はどの御質問ですが、先ほど小久保議員の一般質問でも答弁いたしました。生理の貧困が世界的な社会問題となっており、県内でも小中学校や公共施設のトイレへの生理用品配備や無料で配布する機会を設けるなど対策を講じている市町村が見られます。本市といたしましても、生理の貧困が重要な課題であると認識しておりますので、今後は他市の事例を参考しながら、対応策について検討してまいります。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 教育長 内田達也君。

（教育長 内田達也君登壇）

○教育長（内田達也君） 教育関係の御質問に御答弁申し上げます。

子育て支援についてのうち、学校給食無料化に関してでございますが、子育て支援につきましては重要な課題であると認識しておりますが、教育委員会といたしましては、校舎の老朽化対策や教育内容充実のための学校職員の増員など優先して行わなければならない課題が山積しておりますので、現在のところ給食費の無料化については考えてございません。以上でございます。

○副議長（田畑 毅君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

（経済環境部長 飯尾克彦君登壇）

○経済環境部長（飯尾克彦君） 経済環境部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

暮らし支援策についての中で、ごみ袋の値下げを求める声が多いが、現在の市の考えはどの

御質問でございますが、燃えるごみ専用袋の値下げにつきましては、これまでも広域組合管理者会議等で協議してまいりましたが、合意に至っておりません。また、昨年10月に開催した広域担当課長会議の場におきましても議題として提案したところですが、町村においては住民からの値下げに対する要望がないことから、賛同は得られませんでした。しかしながら、市民の経済的負担を少しでも軽減したい思いがありますので、引き続き構成町村の合意が得られるよう努力してまいりたいと考えております。以上でございます。

○副議長（田畑 毅君） 再質問ありますか。平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） まだ伺ってないところ、抜けているところありますので。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 地域医療についての中期ビジョンの進捗状況について伺うというのがまだ聞いていないと思いますけど。

○副議長（田畑 毅君） 当局の答弁を求めます。市民部長 田中正人君。

（「質問していない」と呼ぶ者あり）

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 申し訳ございません。再質問を続けさせていただきます。

1つは、コロナ対策の地域医療について。地域医療機関の統廃合に拍車をかける病床削減推進法案が、5月20日に参議院厚生労働委員会で可決されました。コロナ禍で日本の医療提供体制の脆弱さが明らかになった中で、さらなる病床削減を進める本案は断じて許されるものではありません。医療過疎地である本市では対象外との認識のようですが、国の根本的な考えが病床削減ありきであるなら、影響がないわけがありません。国に地方からも病床削減反対の声を上げるべきではないでしょうか、見解を伺います。

○副議長（田畑 毅君） 当局の答弁を求めます。市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 地域全体の医療需要と医療資源のバランスを見極めながら慎重に対応していくべきと考えております。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 関連として、長生病院の充実を図る取組では、任期付医師採用制度の活用や千葉大からの医師派遣等で医師確保の成果を上げているんですが、これは非常に評価されるものだと思います。さらに、県の医師少数区域等医師派遣促進事業を活用して、医師不足の解消を図る考えはございませんか、見解を伺います。

○副議長（田畑 毅君） 当局の答弁を求めます。市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 本事業は、医師の派遣が可能な民間医療機関から医師少数区域等の医療機関へ医師の派遣を行うものですが、市といたしましては、派遣を受ける医療機関においても相応の費用負担が生じることや、派遣が最長3年間であることなどの理由から、民間の医師紹介業者や千葉大学等からの医師派遣を中心に医師確保に努めていくほうが望ましいと考えております。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 要望ですが、公立長生病院の在り方検討委員会で、長生郡市内の公立病院として不採算であっても、地域で必要とされる医療を優先として提供する役割を担っている、医師をはじめとする医療資源が不足している状況ではあるが、今後も救急医療、災害医療をはじめとする政策医療の提供が望まれる。このように報告をされていますが、ぜひこの方向を今後とも遵守していただきたいと思います。要望です。

次に、新型コロナのウイルス感染症対策について、PCR検査拡充について再質問をいたします。高齢者施設へのPCR検査について、今後も月1回は継続されるのでしょうか、伺いをいたします。

○副議長（田畑 毅君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 現時点では6月まで実施される予定であり、7月以降につきましては現在検討中であると伺っております。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 検討中ということなのですが、定期検査というのは、働いている方にとっては大変重要な、それで安心して働けるという点でもぜひ継続していただきたいと思います。

次に、医療機関、障害者施設、保育所、学童クラブ、教育機関等への従事者への定期的なPCR検査も必要だと思いますが、市ではどのように考えているのでしょうか、伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 医療機関の従事者へのPCR検査でございますけれども、本市は、新型コロナウイルスの感染者が多数発生している地域やクラスターが発生している地域に該当しないため、定期的なPCR検査については考えておりません。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 障害者施設につきましては、先ほど御答弁申し上げました高齢者施設と同様、千葉県が令和3年3月から月1回障害者入所施設の職員を対象に実施してござ

す。また、保育所及び学童クラブにつきましては千葉県調査対象となっておりませんが、厚生労働省の保育所における感染症対策ガイドラインに基づき、感染予防の徹底に努めており、従事者の体調管理にも万全を期しておりますので、現在のところ定期的なPCR検査の実施は考えておりません。

○副議長（田畑 毅君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 教職員においては、県教育委員会作成の学校における感染対策ガイドラインに基づき、日頃から体調管理を心がけ、感染予防の徹底に努めております。出勤前に検温と風邪症状の確認を行い、発熱や風邪症状がある場合は出勤を控えることとしておりますので、定期的なPCR検査は必要ないと考えております。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 茂原市の感染者数は、現在徐々に増えております。242名ですか、都市部の感染者数と比較すれば多発地域ではないのかもしれませんが、しかし、確実に発症者が増加して、病院でのクラスターも発生しております。その中で、感染におびえながら病院での仕事に明け暮れている医療従事者の安心して仕事をしたいとの切実な声を幾人かの人たちに伺っています。優先的なワクチン接種を行うことは当然ですが、医療機関の従事者こそ、定期的なPCR検査が必要なのではないのでしょうか、再度見解を伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 現在、医療従事者へのワクチン接種が進んでおりますので、定期的なPCR検査の実施は考えておりません。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 確かに医療従事者へのワクチン接種は進んでいるのですが、感染抑止対策では、感染拡大の6割が無症状者と言われております。症状のある感染者を検査するだけでは、感染を抑えることはできません。無症状感染者を見つけ出し、隔離、保護することが鉄則であり、その点からもPCR検査の拡充が重要であると考えます。特に感染力の強い変異株が、東京や大阪だけでなく、札幌、福岡などで全国に広がっております。まだ変異株が広がっていない地域でも、細心の注意が必要だと思えます。

そうした中で、PCR検査をすることで感染拡大を抑え、さらに変異株の状況もつかめます。たとえワクチン接種で感染者が減っても、その一方で変異株が出ていないか、きちんと検査をしていかなければならないと考えます。PCR検査を充実させ、変異株の監視体制をつくる必要があると考えますが、見解を伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 現在、変異株の検査は県が行っているため、県として体制を整えるべきと考えます。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 市の考えはよく分かりました。県がやればよいということでございませぬ。

では、次に進め、民間が実施している抗原検査に対して、一部助成などの対応が必要だと考えますが、市の考えはどうでしょうか。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 抗原検査への助成につきましては、検査の精度が従来のPCR検査よりも低いことと、助成したことにより市が陰性を証明したとの誤解を招く恐れがあることから、現時点では考えておりません。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） それでは、次にワクチン接種について伺います。当初予約受付の中で、電話での受付はどの程度だったのでしょうか、伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 予約が取れた方のうち、電話での予約は3割程度でございました。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 電話回線の予約約3割ということは、残り7割がネット回線だと思うんですけども、65歳以上の方でネットを使いこなす方はどの程度いるのでしょうか。その認識が甘かったんじゃないかと思います。予約への開始前からほかの自治体でも大混乱の状況があり、その情報をつかんでいたと思われませんが、事前に改善の余地はなかったのでしょうか。また、予約体制への苦情も寄せられたと思うんですが、その対応はどうであったのか、お伺いをしたいと思います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 本事業は長生郡市7市町村で実施しておりまして、時間的な制約もある中で、予約改善を行うことはできませんでした。また、予約に関する御意見に対しましては、臨時電話を10回線増設いたしまして対応したところでございます。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 10回線増設して対応して、大体苦情、問合せ等はどの程度抑えていますか、伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 具体的に何件何割という形ではちょっと申し上げることはできませんけれども、かなり10回線増設したことによりまして、苦情等は抑えられているのではないかと考えております。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） ちなみに、私は苦情や問合せは2000件を超えたと伺っております。予約を取れなかった方への対応として、もうこの改善はこれから必要だと考えますが、今後どのような対応を取るのでしょうか。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 今回1回目の予約しか取れなかった方が多数いたことを踏まえまして、次回予約受付時には2回分同時予約を呼びかけてまいります。また、電話がつながらない、ウェブでの申込みは複雑過ぎるといった声をいただいておりますので、引き続き操作方法の相談をお受けしてまいります。なお、今後市で実施予定の集団接種は市民の方を対象としており、予約は予約受付センターで電話またはウェブにより行いますけれども、予約開始日を年齢別に区切ることや、近隣町村と予約開始日を同日としないことで、予約時の混雑を分散させる考えでございます。以上でございます。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） ネット予約の支援を行っている自治体がありますけれども、本市でもそのような対策を取る必要があると考えますが、市での見解を伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 先ほど御答弁申し上げましたけれども、引き続き操作方法の相談をお受けしてまいります。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） じゃ、操作方法の相談以外に、職員とは別に市民ボランティア等を募る考えはないのでしょうか、伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 現在のところ市民ボランティアについては考えておりません。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） ワクチン接種困難者の対応として、移動手段のない方やうちから要するに動くことのできない方への支援が必要だと考えます。このような方々へどのような対応を市として考えているのでしょうか、伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 往診による接種等につきましては、茂原市長生郡医師会と協議してまいります。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） ぜひこの協議のほうも速やかにやっていただきたいと思います。特に高齢者の方ほど、こういった方々が多いと思われれます。その点でも、ぜひワクチン接種を希望している高齢者の方、どなたも取り残されないような対策を取っていただきたいと思います。これは要望です。

次に、65歳以上の市民へのワクチン接種予約体制では、ほかの自治体と同様の混乱が茂原市でも起こりましたけれども、64歳以下の市民への接種も今後行われると思いますが、同様のコールセンターへの予約体制の継続で行われるのでしょうか、お伺いをいたします。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 現在のところ、64歳以下の市民への接種における予約体制につきましても、これまでと同様予約受付センターへの電話またはウェブによる予約を継続する考えでございます。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 先ほどの接種困難者の中には、介護施設もしくは障害者施設、こういうところに入所している方もいらっしゃると思いますが、こういった施設入所者に対してのワクチン接種はどのような対応を行われるのでしょうか伺います。

○副議長（田畑 毅君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 高齢者施設及び障害者施設の65歳以上の入所者へのワクチン接種につきましては、各施設が嘱託医等と日程などを協議し、施設内で接種することとなっております。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） では、次に子育て支援について伺います。

学校の給食無料化についてです。小中学校の給食全額無料とする場合、試算ではどの程度の

予算になるのでしょうか、伺います。

○副議長（田畑 毅君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 本市において全額を無料とした場合、幼小中学生の約5800人分で、年間に3億3000万円の財源が必要となります。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 年間3億3000万円、なかなか厳しいというような、要するに優先順位の中にはまだまだ入らないというような答弁をいただいたんですけども、それでは、全額無料化でなく、例えば千葉市のように第3子のお子さんからとか、また半額とか、食材等の割引とかといったことを行って、一部助成を行っているところも結構増えております。そういったことで実施すると、少しでも実施が可能なんじゃないかと思うんですが、この点で茂原市の考えはどうなるのでしょうか、伺います。

○副議長（田畑 毅君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 先ほども申し上げましたけれども、教育委員会といたしましては、他に優先すべき課題が山積しておりますので、現在のところ一部助成についても考えておりません。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 優先させる課題は山積みとのことですね。統廃合もありますし、住民合意がまだまだできてないところの小学校も、今できている最中がございますので、そういったほうにたくさん目が行くんでしょうが、コロナ禍の下で子供の貧困も大きな課題となっております。子どもの家庭環境等への配慮もぜひよろしくお願ひしたいと思います。要望です。

次に、子どもの医療費助成の年齢拡充について伺います。高校3年生まで拡充した場合、試算ではどの程度の予算となるのでしょうか、伺います。

○副議長（田畑 毅君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 高校3年生まで拡充した場合の金額につきましては、既に実施済みの県内自治体の実績から推計いたしますと、約2400万円程度と見込んでおります。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 高校3年生まで拡充した場合、試算2400万円とのことですが、これは実現不可能な金額ではないと思います。例えば先ほど質問しましたお子さんの人数、児童数が減っているということで、決算額も平成30年度で2億8415万円余、令和元年で2億7990万円余、令和2年では2億1634万円余、こういった金額が答弁で伺ったんですけども、もう既に元年

から2年にかけては6000万円余余っているというか、減っているんですよね。そういうふうにしてどんどんどんどん人数が減っている。その中で、2400万円。これは、できない相談ではないんじゃないかと思います。特に、今、子育て世代にとっては非常にお金がかかるというのは先ほども言いましたけれども、人口も減っています。ぜひ若い人たちが子育てしやすい茂原市にするためには、このところをやはりきちんと充実させる必要があると思うんですが、また、こういった施策に対しては重要施策と茂原市は認識しているという答弁もいただいております。ぜひ総合計画においても、子育ての環境整備、充実を取り上げております。財政調整基金を充てても、実施すべきではないでしょうか、再度見解を伺います。

○副議長（田畑 毅君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 先ほど御答弁申し上げましたとおり、子ども医療費の高校3年生までの拡充につきましては毎年度の負担となりますので、他の子育て支援施策との優先順位を考慮しながら、必要性について検討してまいりたいと考えております。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） ぜひ検討していただきたいと思います。

次に、暮らし支援策についてです。ごみ袋の負担軽減について再質問をいたします。茂原市が独自に行う生活支援策として、市内全戸にごみ袋10枚1袋を配布したらどうか。これは、私ども日本共産党の茂原市議団が、市民の皆さんに公約したものでもございます。ぜひ市の見解を伺いたいと思います。

○副議長（田畑 毅君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 生活支援策として、燃えるごみ専用袋の全世帯への配布につきましては考えておりません。しかしながら、市といたしましては、引き続きごみ袋の値下げに向け、努力してまいりたいと考えております。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 先ほども市民の経済的負担を少しでも軽減したいという思いがあると、引き続き構成町村の合意が得られるように努力したいと、このような答弁もありましたので、市のほうもごみ袋が高いと、引き下げたいという認識をお持ちですので、少しでも前進を望むものです。これは要望です。ぜひ検討をよろしくお願いいたします。

次に、生理用品の配布について伺います。公共施設や小中学校に配備する必要があると考えますけれども、地方創生臨時交付金を活用して実施できないのでしょうか、市の考えを伺います。

○副議長（田畑 毅君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

○企画財政部長（麻生新太郎君） 小中学校につきましては、既に全ての学校に配備されており、困った児童生徒がいた場合、対応できる体制を整えております。公共施設の配備につきましては、地方創生臨時交付金の活用を含め、関係部局と連携し、検討してまいります。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） 地方創生臨時交付金、たしか5000万円はちょっと足りなかったんですけども、まだ余っております。特にこれから梅雨どきですし、そういった水害等もまた来ないとも限らないので、ぜひ防災のほうの備蓄として、多分こちらのは備蓄されていると思うんですけども、そういった点でもぜひ今まで以上に確保していただきたいと思うんですけども、そこら辺はどのようなお考えでしょうか、伺いたいと思います。

○副議長（田畑 毅君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 生理用品につきましては、防災備蓄品として確保しております。その中で入替え時期等もございますので、その際には、先ほど小久保議員のところでも御答弁申し上げましたが、無償での提供の1つとしてまいりたいというふうには考えております。以上でございます。

○副議長（田畑 毅君） 平ゆき子議員。

○19番（平ゆき子君） では、以上をもちまして私の質問を終わらせていただきます。

○副議長（田畑 毅君） 以上で平ゆき子議員の一般質問を終わります。

ここで、しばらく休憩します。

午後2時01分 休憩

————— ☆ ————— ☆ —————

午後2時10分 開議

○副議長（田畑 毅君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、細谷菜穂子議員の一般質問を許します。細谷菜穂子議員。

（17番 細谷菜穂子君登壇）

○17番（細谷菜穂子君） 皆様、こんにちは。細谷菜穂子でございます。多くの市民を代表いたしまして、質問をさせていただきます。コロナウイルスの国難の今、本当に医療従事者の皆様には感謝を申し上げたいと思います。

それでは、質問をさせていただきます。通告に従いまして質問をいたします。

1番目、新型コロナウイルスの予防政策でございます。今日の出番は、私は4番目というこ

とで、コロナに関してはダブリがあるかもしれませんが、茂原市における予防政策としてあえて伺うところでございます。国からの交付金あるいはそういう等々よりも、もっと身近な茂原市における予防政策について、まずお伺いをしたいと思います。

大きな2点目は、新しい10年の指針、茂原市の総合計画の中に、未来へつながる「交流拠点都市」もばらの新しい市民会館についてでございます。新しい市民会館でございますが、今、茂原市は、総合計画をつくるにあたって、時代の変化に的確に対応し、地域の発展、そして魅力ある都市の形成のために、新たな総合計画を作成したということでございます。大いにこれから始まる10年ということで計画を立てているところでございましょう。そして、市民会館でございますが、2年前に今までの市民会館を閉じて、閉館記念コンサートを締めコンサートとして実施して閉めたわけでございます。あれから2年、地域の人、市民の人はどうなっているのかなという声があると思います。

そういう中で、災害があり、あるいはもちろんこのコロナも災害の1つだろうと思います。そういう状況の中ではありますが、やはり計画を持ってしていかなければ前に進まないわけでございます。新しい市民会館について、どういうふうに取り組まれるのか、お伺いをするところでございます。

次に、大きな3点目でございます。茂原市における地籍調査の実施についてでございます。地籍というのは土地の戸籍みたいなものでございます。地籍が明確であれば、都市計画も当然早く進むわけでございます。住民との境界が永久に確定するわけでございます。公図だけでは、土地の境界も保障されない部分があります。公図が含んでいる問題を解決しながら境界を確定し、土地という財産を保障するため、その作業が地籍調査でございます。この地籍調査、茂原市ではどういうふうに取り組んでいるのか。

1点目といたしましては、現在の進捗状況についてでございます。

2点目は、多発する災害から考える茂原市の地籍調査の必要性でございます。

それから3点目、この事業は大いに市民に貢献できる事業であると思います。その辺りの市としての考え方についてお伺いをいたします。

次に、大きな4点目でございます。茂原市の防災についてでございます。

茂原市の防災、たくさんのいろいろな観点から見ていかななくてはいけないわけですが、今回、私の質問は、特に今コロナ禍の中で、防災無線がすごく重要だなというふうに市民の方は感じてもらえるんじゃないかなと思います。そういう声も受けます。ホームページで出しているから見てくださいますとか、いろんなことをそらいろんな広報の仕方があるわけですがけれども、防災

無線は一遍に市民に伝わるんです。そういう利点があります。しかしながら、デジタル化の子機も今年度で実施が終わるということでございますが、防災無線が聞こえないという声も多いですね。電話で確認をして聞けるサービスもあります。それと、やはり家の中で聞ける戸別受信機がありますね。戸別受信機について、特に高齢者の方は、スマートフォンとかはなかなか難しいと思いますので、戸別受信機があると良いのではないかなというふうに思います。戸別受信機について、改めて当局の市としての配布の実施についてどう考えるか質問をするところでございます。

私からは、1回目の質問としてお願いをしたいと思います。よろしく願いいたします。

○副議長（田畑 毅君） ただいまの細谷菜穂子議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 細谷菜穂子議員の一般質問にお答えさせていただきます。

私からは、まず新しい10年の指針、茂原市総合計画について、新しい市民会館建設の現在の考え方はとの御質問でございますけども、新市民会館建設につきましては、議員御指摘のとおり令和元年に大雨がございまして、そこで大きく狂ってきたかなと思っております。私としてもできる限り早期に市民会館を、できれば任期中にやりたいなという思いも強くございまして、いろいろと検討させていただいた中で、今の旧の市民会館があるところも含めて複数の建設候補地を検討したところでございます。その時点では、まだ財調のほうも50億円近く積み立ててきたものですから、そういった財調も使いながらも何とかやり遂げたいなという思いでおります。

しかし、大雨によりまして旧の市民会館がまず浸水してしまったと。大雨によりまして大幅に市民会館の構想が狂ってきたというのは事実でございます。したがって、再度もう一度検討し直さなければならないという状況と、財調もあの時点で30億ぐらい一挙に使ってしまいましたので、また大雨が来るとどうなるのかなという心配もございまして、なかなか決断ができないのが今の状況かなと。

それプラス、新型コロナウイルス感染症の持ちおきようでございます。これは、はっきり言って目に見えない敵に今遭遇しているような状況でございますので、広報でも書きましたけど、有事、有事といっても戦時下と私は最初書いたんですが、戦争になっていないので有事という言葉を使わせてもらいながらも、準有事というある学者が使っていた言葉を引用させていただ

きました。こういうような非常に国、世界中です、今。本当にこのウイルスで振り回されている状況でございますので、こういった状況がいつまで続くかまだ予断を許さないと。

つまりいろいろな面で、財政もそうですし、それから市民生活においてもそうですし、そういう経済状況の特に厳しい状況にまた陥るだろうと。税収が落ち込んで先を見通せない時代が来るんじゃないかと。現に昨日も京都市が財政再生団体に陥るかもしれないと。非常事態宣言を出しておりますけれども、京都ですらそのような状況に追い込まれるような今の状況でございますので、市民会館をやりたいという強い思いはありますけれども、なかなか決断するのが、今の状況からすると難しいかなと思っております。それよりも今老朽化しております旧の市民会館の解体に向けての検討に取りあえずは入っていかざるを得ないかと。

先ほども質問の中でありましたけど、駅前の開発に含めた総合的などうだという話なんですけど、いろんな恐らく思惑もまたこの後出てくると思います。桑原八千代線ですか、あれに向けた駅前の土地の収用がこの後うまくいって行くような状況になりますと、イオンも大分変わってくるかなと思っておりますが、イオン自体がころころ変わるんですね。あまりにも変化が激しいものですから、行政側としては非常についていけないというのが今の実情でございます。そういった意味も踏まえて複合的に考えていくのか、あるいは単独で市民会館を検討するのか、こういったことも十分頭の中に入れて対応してまいりたいと思っております。

次に、茂原市の防災について、防災行政無線、戸別受信機の高齢者への無償配布する考えはとの御質問でございますけれども、確かに行政防災無線は聞きづらいんですね。特に風雨が強くなって、特に窓を開けるわけにもいかないんで、聞きづらいんで何とかしろというような意見は相当ございます。私もそういう事はずっと前から思っておりまして、これは何とかしなきゃいけないということなんですけど、いかんせん戸別の受信機がかなり高額でございまして、だったら有線がいいんじゃないかという話もあるんですけども、有線等も検討させていただきながら、今後またそういった高齢者やいろいろな聞きづらい方への配慮等も含めて、再度もう一度検討してまいらなきゃいけないかなと思っております。

当面は、先ほど議員からも指摘あったとおり電話・ファクスによります配信サービスを行っていくことから、現在のところ高齢者への無償配布というものは、先ほど申し上げたとおり考えておりません。ただ、水害等危険地域の自治会長、防災自治副会長、消防団等、こういう方たちには合計559台、もう既に戸別配布させていただいておりますので、そういったところからいろいろな非常時には発信をさせていただければと思っております。また、発信サービスについては、市公式ウェブサイトや広報もばらにて周知を図っているところでございます。

私から以上でございます。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

（市民部長 田中正人君登壇）

○市民部長（田中正人君） 市民部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

茂原市における予防政策の取組についての御質問でございますけれども、市としての新型コロナウイルス予防対策につきましては、令和2年2月18日に茂原市感染症対策本部を設置し、対策にあたっております。物品の支援といたしまして、医療、介護、福祉施設、国の配付が遅れた妊婦、国からの支給がない幼稚園や保育園の園児に対し、市が備蓄購入いたしましたマスクの配付を行いました。また、昨年7月から、庁舎をはじめ各公共施設において検温を実施し、感染拡大防止に取り組んでおります。検温につきましては、現在も継続中でございます。引き続き実施してまいりたいと考えております。

さらに、感染防止対策の啓発といたしまして、防災行政無線を用いて200回を超える回数を放送しております。これからも防災行政無線は感染防止の有効手段の一つであることから、引き続き放送してまいりたいと考えております。

○副議長（田畑 毅君） 都市建設部長 渡辺修一君。

（都市建設部長 渡辺修一君登壇）

○都市建設部長（渡辺修一君） 都市建設部所管に関わります御質問に御答弁いたします。

最初に、茂原市における地籍調査の実施についての御質問で、現在の進捗状況はどのようになっているのかとの御質問ですが、昨年度実施した業務委託により、調査対象面積や筆数、年度別区域の設定、総事業費の算出などを行い、事業実施計画書の作成を行ったところでございます。

次に、多発する災害から考える茂原市の地籍調査の必要性の中で、水害、土砂災害等の早期復旧に有効と考えるがとの御質問ですが、地震、土砂崩れ、水害等の災害により土地の形状が大きく変わった場合においても、境界を容易に復元することができ、災害復旧につながる有効な事業であると考えております。

最後に、市民に貢献できる事業という考え方の中で、市民や土地所有者に貢献できる事業であるという考え方との御質問ですが、土地の境界や面積を明確化することにより、境界をめぐるトラブルの未然防止、土地取引の円滑化などが挙げられます。また、登記手続のための境界確認作業が簡素化され、登記費用の軽減が図られると考えられます。以上でございます。

○副議長（田畑 毅君） 再質問ありますか。細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） コロナの予防対策でございますが、保育所とか幼稚園、小中学校あるいは市役所内、公民館、教育施設といったところの予防対策はどのようにされていますか。

○副議長（田畑 毅君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 保育所における感染対策といたしましては、厚生労働省の保育所における感染症対策ガイドラインや新型コロナウイルスに関する各種通知に基づき、登園前・登園後の検温等、園児の健康状態を確認するとともに、小まめな施設内の消毒換気及び手洗い等を行っております。また、園児が使用するテーブルの人数を制限し、食事の際には、飛沫対策としてアクリル板を設置するなど感染防止に努めております。

福祉センターにおきましては、施設入り口での検温、施設内の定期的な換気や消毒、手指消毒液、飛沫防止シートの設置などにより感染対策を図っております。また、施設を利用される方には、基本的な感染対策を行っていただいた上で、3密を避けた利用をお願いしております。

○副議長（田畑 毅君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 幼稚園、小中学校においては、文部科学省が発出している学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル「学校の新しい生活様式」や、県教育委員会作成の新型コロナウイルス感染症学校における感染対策ガイドラインなどを参考に、発生源及び感染経路を断つことや免疫力を高めるよう指導をしております。さらに、いわゆる3密を避けるために換気の徹底、身体的距離の確保、密接する場面でのマスクの着用を徹底し、集団感染を防ぐことに努めております。

公民館や市民体育館につきましては、利用者に対して検温、マスクの着用、手指消毒をお願いするとともに、施設の利用形態に応じて感染症対策チェックシートを配布し、確認、遵守していただいております。また、利用者が使用した机、椅子、ドアノブや電灯スイッチなど手に触れる部分について消毒を実施し、感染対策に取り組んでおります。なお、施設を貸し出す場合については、各部屋の利用定員を通常の半分に制限をしております。

○副議長（田畑 毅君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 市役所本庁舎の感染対策といたしまして、来庁者用出入口を1階東側のみとし、サーマルカメラを設置し、検温を行っております。体温が37.5度以上ある場合は入庁を控えていただいておりますが、必要に応じ、用務先の担当者が東側出入口で対応いたします。また、来庁者の方にはマスク着用、手指消毒の御協力をお願いしております。なお、庁舎内の感染対策として、カウンターへのパーティションや透明ビニールシートの設置、次亜塩素酸ナトリウムによる清拭、待合スペースの着座間隔の確保、庁舎の定期的な換気等に努め

ておるところでございます。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） そのように予防対策をしておられるということでございます。予防の大きなワクチン接種でございますが、今現在の茂原市のワクチン接種の状況をお伺いいたします。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） ワクチン接種につきましては、4月19日から医療従事者、その後高齢者施設に入所している方への接種を開始し、現在は65歳以上の接種を市内の医療機関の協力を得て個別接種で実施しているところでございます。今後は集団接種も併せて実施していくことで、7月末までに高齢者の接種が完了するよう努めてまいります。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） キャンセルとかといった状況はどのようなになっているか伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 予約後のキャンセルの状況につきましては、予約受付センターへの電話かウェブからのキャンセルとなっているため、数については把握しておりません。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） キャンセルが出た場合のワクチンを無駄にしないということが大切だと思いますが、その辺の方策について伺います。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 突発的なキャンセルが生じてしまった場合には、ワクチンの廃棄を防ぐため、医療機関での柔軟な対応をお願いしております。また、市においても、優先順位を考慮したキャンセルリストを作成し、医療機関で対応できない場合、代替りの接種者をリストから案内しております。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 広域的なことじゃなくて、今度は茂原市だけの集団接種が始まるということでございましたね。それについて、どのように進めていくのか、伺います。そしてまた、どのように市民に周知をしていくのか、分かりやすく周知していくのか、お願いいたします。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 集団接種につきましては、今月末から8月1日までの土曜日と日曜日に市役所をはじめとする複数の会場において、茂原市長生郡医師会等の協力をいただき、実施する予定であります。また、周知方法でございますが、市公式ウェブサイトや広報、防災行政無線等を予定しております。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 複数の会場ということですが、市役所は分かりますが、その他はどこでしょうか。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 市役所以外の集団接種会場につきましては、本納公民館（ほのおか館）、それと長生郡市広域市町村圏組合管理棟の2施設を会場といたします。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 市民の中には、個別の接種を1回目はやったけれども、2回目が取れなくて、2回目は集団接種で、市の独自のもので受けられますかという質問もたまにありますが、それについてはどうですか。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 集団接種につきましては、これまで1度も予約が取れていない方を対象として考えております。そのため、個別接種の1回目の予約だけしか取れていない方の対応につきましては、1回目に予約された医療機関に市から連絡をして、予約枠を確保いたしまして、対象者の方に個別に通知してまいります。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 分かりやすく、やはり市民に説明してあげることが一番だと思いますね。65歳以上の方のは大体分かるんですが、64歳以下の市民に対しての接種の予定、今現在分かる範囲でお願いいたします。

○副議長（田畑 毅君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 64歳以下の方へのワクチン接種につきましては、国から示されている優先順位に基づきまして、まずは基礎疾患を有する方、次は高齢者施設等で従事されている方の順で実施する計画でありますが、実施時期につきましては、今後7市町村で協議して決定してまいります。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 分かりやすく親切に説明をして、茂原市の安全ということをしてい

ただけたらと思います。

次の質問に移ります。

2番目の市民会館でございますが、解体を含めて、公共複合施設の老朽化対策への国の補助などさらにあるかどうか調査をする必要があるのではないかなというふうに思いますが、どうでしょうか。

○副議長（田畑 毅君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

○企画財政部長（麻生新太郎君） 今後も引き続き補助金等について情報収集に努めてまいります。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） あくまでも茂原市としては市民会館は必要という概念ですよね。そういうふうには、そして中央公民館と一緒に壊してというふうな考えも今までもありましたけれども、そういう複合施設の集約化の総務省に公共施設等適正管理推進事業債というのがあります。地方債を発行して財源を確保することが認められている。返済費の30%から50%は国が地方交付税で財政支援している。これは来年の3月まで申込みができるというのがあります。この辺り、ぜひ調査されたいと思いますが、いかがでしょうか。

○副議長（田畑 毅君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

○企画財政部長（麻生新太郎君） 引き続き情報収集に努めてまいります。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 公共複合施設の基金について、これは、コロナだからとか水害だから云々じゃなくて、今までの何年か前からのいろんな方の質問の中にも基金についてはありました。この基金について、改めて名称と、そして今現在の残高を伺います。

○副議長（田畑 毅君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

○企画財政部長（麻生新太郎君） 基金ですけど、名称は茂原市民会館等建設基金です。基金の残高ですが、令和2年度末現在で1億2247万5749円となっております。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） ふるさと納税だとかいろいろなことが考えられるわけですけども、1つ、これは県の産業振興課でしょうか、今、補正を2000万円ぐらいつけて可決されるかというところなんだろうけれども、DX、デジタルトランスフォーメーションの推進でございます。市町村を超えた事業ということで、実際に継続性のあるもの、単年度じゃなくて継続性がずっと必要なものということも条件の1つにも入っておりますので、今年の秋ぐらいにオンラ

インででしょうけれども、オープンイノベーションがあると、交流会を開くというふうなことも新聞等々でも書いてございました。この辺りも一つの選択と言いましょか、目で見ていく必要があるのではないかなと思いますが、どうでしょうか。

○副議長（田畑 毅君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

○企画財政部長（麻生新太郎君） 寄附等につきましては、先ほど議員からもおっしゃっていただきましたようにふるさと納税制度を利用した寄附をいただいておりますけど、他の手法につきましても、今後建設を検討する中で、様々な手法について研究してまいります。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 新たな市民会館を造る、その前に解体とか全部含めて造るという工程になるわけですがけれども、これからがやはり大事なときだと思いますので、ぜひ進めていただきたいというふうに、市民もそういうふうに思っていると思います。これについては、これぐらいにしたいと思います。

次に、地籍調査についてでございますが、事業計画書を作成したということですが、いつから実施するのか、予定を伺います。

○副議長（田畑 毅君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 重要な事業だとは思いますが、新型コロナウイルス感染症の影響による経済の先行きが不透明なことや内水対策などを優先して行うため、現在のところ実施時期については未定でございます。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 地籍調査は、補助はあるわけです。国が50%、県が25%、市は25%ですがけれども、8割は特別交付税で措置されると。市の持ち出しは多分5%ぐらいだと思います。単年度じゃなくて、多分16年からあるいは20年くらいかかるだろうと思います。そういう中で、加えて地籍調査の効果は防災対策の地図に活用できる、固定資産税の適正課税、そして境界の争いが減る、財産分与のときに測量が不要、早く登記することができる、土地取引が早くできる、豪雨などの災害時の避難指示の情報の活用できるというふうに私は思うんですね。市長さんの公約にもありましたので、ぜひ高齢化あるいは空き家対策の多い中で、今現在やっておる内水対策、河川激甚災害特別緊急事業ですか。これがある程度めどがつくのが令和6年だと思います。その次の令和7年から実施されたいのではないかなというふうに思いますが、どうですか。

○副議長（田畑 毅君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 先ほども申し上げましたけど、地籍事業は必要性のある事業だとは十分認識しております。しかしながら、事業の継続性、優先性、緊急性等を考慮しながら判断してまいりたいと考えております。

○17番（細谷菜穂子君） ぜひ判断をしていただいて、進めてください。よろしく願いいたします。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 防災行政無線の戸別受信機の件でございます。先ほどの答弁では、1台当たり4万円ぐらいするということのあれでよかったんでしょうか、ちょっとお伺いします。数字をちょっと教えてください。

○副議長（田畑 毅君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 昨年度購入いたしました100台につきましては、1台あたり税込みで4万1800円でございます。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 無償配布は考えていないということですが、昨年度から多分始まったと思いますが、貸出しがありますよね。レンタル方式について教えていただけますか。

○副議長（田畑 毅君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 戸別受信機の貸出し状況につきましては、水害警戒区域や土砂災害警戒区域の方を優先し、昨年度末現在で90名の方に貸与しております。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 区域以外の貸出しの内容なんですけれども、これは1万円ですだったでしょうか。途中何か壊れたとか、そういうときのメンテナンスとかといったことを教えていただけますか。

○副議長（田畑 毅君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 戸別受信機の分担につきましては、貸与時に1万円を納付していただき、その後の御負担はございません。管理につきましては、使用者の故意または重大な過失以外の故障につきましては、市のほうで修理もしくは交換をさせていただいております。以上です。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） レンタル方式、貸出しは今年度もやる予定ですか。

○副議長（田畑 毅君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） はい、今年度も引き続き貸出しをしてまいりたいと考えております。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） 先ほど来お話ししているように、やっぱり防災行政無線、聞こえて、そして理解して初めてそうなんだということが市民は分かって安心すると思います。防災行政無線の戸別受信機は、災害のときにライフラインが止まって、電気が止まっても乾電池で動くだろうというふうに周知していますが、それで間違いないですか。

○副議長（田畑 毅君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） そのとおりでございます。

○17番（細谷菜穂子君） ですから、電気が止まっても、携帯電話あるいは普通の固定電話、携帯電話は集中しているとなつながらない。固定電話も、電気が止まってしまうと使えない。戸別受信機は乾電池で動きますので、聞くことができるということです。非常にやはり大事なものであるのかなというふうに思いますので、ぜひこれは広報とかでまた周知を図るということでしょうか。

○副議長（田畑 毅君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 皆様に周知のほうは適切にさせていただきたいと考えております。

○副議長（田畑 毅君） 細谷菜穂子議員。

○17番（細谷菜穂子君） よろしくお願いをしたいと思います。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○副議長（田畑 毅君） 以上で細谷菜穂子議員の一般質問を終わります。

これをもって、本日の議事日程は終了しました。

明日は午前10時から本会議を開き、一般質問を続行します。

本日は以上で散会します。御苦労さまでした。

午後 2 時53分 散会

————— ☆ ————— ☆ —————

○本日の会議要綱

1. 議案第23号の上程説明
2. 一般質問
 1. 小久保ともこ議員の一般質問並びに当局の答弁
 - ① コロナ対策について

② 福祉の充実について

2. 三橋弘明議員の一般質問並びに当局の答弁

① 茂原公園について

② ひめはるの里について

③ 地域消防の後継者について

④ 文化ホールについて

⑤ 教科書採択について

⑥ 本納地区学校再編について

⑦ 本納駅東口の橋上化について

3. 平ゆき子議員の一般質問並びに当局の答弁

① 地域医療について

② 新型コロナウイルス感染症対策について

③ 子育て支援について

④ くらし支援策について

4. 細谷菜穂子議員の一般質問並びに当局の答弁

① 新型コロナウイルス予防政策について

② 新しい10年の指針、茂原市総合計画について

③ 茂原市における地籍調査の実施について

④ 茂原市の防災について

○出席議員

議長 中山和夫君

副議長 田畑毅君

1番	御園敏之君	2番	工藤孝弘君
3番	河野英美君	4番	横堀喜一郎君
5番	河野健市君	6番	高山佳久君
7番	西ヶ谷正士君	8番	石毛隆夫君
9番	岡沢与志隆君	10番	向後研二君
11番	杉浦康一君	12番	小久保ともこ君
14番	山田広宣君	15番	金坂道人君
17番	細谷菜穂子君	18番	鈴木敏文君
19番	平ゆき子君	20番	ますだよしお君
21番	三橋弘明君	22番	常泉健一君

☆

☆

○欠席議員

なし

☆

☆

○出席説明員

市長	田中豊彦君	副市長	豊田正斗君
教育長	内田達也君	理事	山田隆二君
総務部長	鈴木祐一君	企画財政部長	麻生新太郎君
市民部長	田中正人君	福祉部長	斎藤洋士君
経済環境部長	飯尾克彦君	都市建設部長	渡辺修一君
教育部長	中村一之君	総務部次長 (総務課長事務取扱)	渡邊正統君
企画財政部次長 (企画政策課長事務取扱)	木島成浩君	市民部次長 (生活課長事務取扱)	宮本弘美君
福祉部次長 (社会福祉課長事務取扱)	平井仁君	経済環境部次長 (商工観光課長事務取扱)	山本茂樹君
都市建設部次長 (土木建設課長事務取扱)	白井高君	都市建設部次長 (建築課長事務取扱)	高橋啓一君
教育部次長 (教育総務課長事務取扱)	佐久間尉介君	職員課長	田中秀一君
財政課長	中田喜一郎君		

————— ☆ ————— ☆ —————

○出席事務局職員

事務局長	関屋典
局長補佐	鶴岡隆之
議事係長	金坂賢